2025 事業年度

事　業　報　告　書

日 本 中 央 競 馬 会

Ⅰ　業務の実施状況

１．2025 事業年度の業務の実施状況

（１）競馬の実施等

①　競馬の開催状況

・開催回数　36 回　　・開催日数　288 日

（内訳）

競馬場	開催回数	開催日数	競馬場	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	14 日	東京競馬場	5 回	45 日
函館競馬場	1 回	12 日	中京競馬場	5 回	33 日
福島競馬場	3 回	20 日	京都競馬場	4 回	39 日
新潟競馬場	4 回	24 日	阪神競馬場	5 回	39 日
中山競馬場	5 回	42 日	小倉競馬場	2 回	20 日

②　売得金及び開催競馬場入場人員

売 得 金	3兆5,178億4,445万3,200円
開催競馬場入場人員	522万9,792人

③　国庫納付金

第 1 国庫納付金	3,517億8,444万5,320円
第 2 国庫納付金	320億6,070万4,346円

④　主な業績項目の数値

項　目		数　式	本事業年度数値
競馬開催計画達成率	開催回数	開催実施回数／開催計画回数	100％
	開催日数	開催実施日数／開催計画日数	100％
職員一人当りの効率	対売上収入	売得金／職員数	1,938,206千円
	対入場人員	開催競馬場入場人員／職員数	2,881人
対売上収益率		剰余金／売得金	1.82％

（２）馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

〔ＪＲＡ所属〕　　〔その他〕※ⅰ ⅱ

登録の種類	登録の数	取消の数	本事業年度末数	国際関係	地方関係
馬主の登録	240 名	108 名	2,991 名	3(6)名	27 名
馬 の 登 録	5,349 頭	5,419 頭	9,248 頭	3(3)頭	61 頭
服色の登録	135 件	101 件	2,112 件	3(6)件	―

※ⅰ「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）
　ⅱ「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

（３）調教師及び騎手の免許

〔ＪＲＡ所属〕※ⅰ ⅱ　　〔その他〕※ⅲ ⅳ ⅴ

免許の種類	免許の数	取消の数	本事業年度末数	短期	国際関係	地方関係
調教師の免許	192 名	0 名	192 名	―	3 名	55 名
騎手の免許	140 名	5 名	135 名	16 名	8 名	57 名

※ⅰ「免許の数」：　3月1日付免許者数
　ⅱ「取消の数」：　免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数
　ⅲ「短期」　　：　臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）
　ⅳ「国際関係」：　国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）
　ⅴ「地方関係」：　地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

（４）競走馬の育成

日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、育成研究を目的として市場購買馬（2024年購買の2歳馬74頭及び2025年購買の1歳馬74頭）の育成を行いました。

また、日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、生産育成研究を目的としてＪＲＡ生産馬（当歳10頭、1歳9頭及び2歳9頭）の育成を行いました。

（５）騎手の養成・訓練

競馬学校において騎手の養成を行い、7名が卒業しました。2025事業年度末現在の在校者数は19名となっています。

（６）日本中央競馬会法第 19 条第 2 項第 4 号に掲げる業務

上記（１）～（５）の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を行いました。

そのうち、特別振興資金を使用して、競馬振興事業を実施しました。

合計金額　　131億9,531万9,155円

（７）畜産振興事業

特別振興資金を使用して、畜産振興事業を実施しました。

合計金額　　47億9,383万8,317円

（８）払戻金への上乗せ

特別振興資金を使用して、1 号給付金及び 2 号給付金を払戻金に上乗せしました。

1号給付金　　22億8,702万1,170円

2号給付金　　40億8,056万8,850円

合計金額　　63億6,759万　20円

（９）競走馬生産振興業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競走馬生産振興業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額　　23億9,600万円

(10) 競馬活性化業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競馬活性化業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額　　31億750万4,073円

(11) 借入金、財政投融資資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

該当ありません。

２．前事業年度までにおける業務の実施状況

（１）競馬の実施等

①　競馬の開催状況

事業年度	2022 年		2023 年		2024 年	
	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	14 日	2 回	14 日	2 回	14 日
函館競馬場	1 回	12 日	2 回	12 日	1 回	12 日
福島競馬場	3 回	20 日	3 回	20 日	3 回	20 日
新潟競馬場	4 回	26 日	4 回	26 日	4 回	28 日
中山競馬場	5 回	42 日	5 回	42 日	5 回	41 日
東京競馬場	5 回	45 日	5 回	45 日	5 回	44 日
中京競馬場	6 回	45 日	4 回	32 日	4 回	29 日
京都競馬場	0 回	0 日	3 回	29 日	7 回	60 日
阪神競馬場	6 回	54 日	5 回	46 日	2 回	16 日
小倉競馬場	4 回	30 日	3 回	22 日	3 回	24 日
合　計	36 回	288 日	36 回	288 日	36 回	288 日

②　売得金及び開催競馬場入場人員

事業年度	売　得　金	開催競馬場入場人員
2022 年	3兆2,736億8,192万8,500円	279万　937人
2023 年	3兆2,964億　963万3,200円	462万4,106人
2024 年	3兆3,428億　926万5,300円	513万5,167人

③　国庫納付金

事業年度	第 1 国庫納付金	第 2 国庫納付金
2022 年	3,273億6,819万2,850円	418億9,334万　638円
2023 年	3,296億4,096万3,320円	284億6,404万8,173円
2024 年	3,342億8,092万6,530円	322億7,353万9,717円

④　主な業績項目の数値

項　目		2022 年	2023 年	2024 年
競馬開催計画達成率	開催回数	100%	100%	100%
	開催日数	100%	100%	100%
職員一人当りの効率	対売上収入	1,840,180 千円	1,832,356 千円	1,851,971 千円
	対入場人員	1,568 人	2,570 人	2,844 人
対売上収益率		2.28%	2.56%	1.93%

（２）馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

①　馬主の登録

〔ＪＲＡ所属〕　　〔その他〕※ⅰ ⅱ

事業年度	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
2022 年	174 名	106 名	2,740 名	4(8)名	37 名
2023 年	177 名	122 名	2,795 名	1(4)名	24 名
2024 年	171 名	107 名	2,859 名	9(4)名	32 名

②　馬の登録

〔ＪＲＡ所属〕　　〔その他〕※ⅰ ⅱ

事業年度	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
2022 年	5,330 頭	5,168 頭	9,052 頭	5(5)頭	59 頭
2023 年	5,534 頭	5,401 頭	9,185 頭	2(2)頭	63 頭
2024 年	5,532 頭	5,399 頭	9,318 頭	11(11)頭	54 頭

③　服色の登録

〔ＪＲＡ所属〕　　〔その他〕※ⅰ

事業年度	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係
2022 年	128 件	110 件	2,044 件	4(8)件
2023 年	113 件	100 件	2,057 件	1(4)件
2024 年	124 件	103 件	2,078 件	9(4)件

※ⅰ「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）
　ⅱ「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

（３）調教師及び騎手の免許

① 調教師の免許

〔ＪＲＡ所属〕※ⅰ ⅱ　　〔その他〕※ⅳ ⅴ

事業年度	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
2022 年	190 名	0 名	190 名	5 名	48 名
2023 年	192 名	2 名	190 名	2 名	61 名
2024 年	192 名	1 名	191 名	10 名	45 名

② 騎手の免許

〔ＪＲＡ所属〕※ⅰ ⅱ　　〔その他〕※ⅲ ⅳ ⅴ

事業年度	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	短期	国際関係	地方関係
2022 年	149 名	3 名	146 名	10 名	9 名	39 名
2023 年	151 名	7 名	144 名	14 名	7 名	61 名
2024 年	148 名	10 名	138 名	17 名	15 名	48 名

※ⅰ「免許の数」： 3月1日付免許者数
ⅱ「取消の数」： 免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数
ⅲ「短期」： 臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）
ⅳ「国際関係」： 国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）
ⅴ「地方関係」： 地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

（４）競走馬の育成

事業年度	育成頭数
2022 年	174(26)頭
2023 年	174(26)頭
2024 年	175(27)頭

（内訳）

当歳馬	1 歳馬	2 歳馬
8(8)頭	83(9)頭	83(9)頭
9(9)頭	82(8)頭	83(9)頭
10(10)頭	83(9)頭	82(8)頭

※ ( )内は育成したＪＲＡ生産馬の頭数（内数）

（５）騎手の養成・訓練

事業年度	競馬学校卒業者数	当該事業年度末在校者数
2022 年	9 名	21 名
2023 年	6 名	20 名
2024 年	7 名	21 名

（６）日本中央競馬会法第 19 条第 2 項第 4 号に掲げる業務

① 2022 年、2023 年及び 2024 年の各事業年度において、上記（１）～（５）の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を実施しました。

② 競馬振興事業

事業年度	金　額
2022 年	113億8,196万9,475円
2023 年	133億1,354万1,497円
2024 年	92億9,651万2,304円

（７）畜産振興事業

事業年度	金　額
2022 年	42億4,538万　993円
2023 年	47億6,320万7,359円
2024 年	47億1,516万7,555円

（８）払戻金への上乗せ

事業年度	金　額	1 号給付金	2 号給付金
2022 年	66億9,429万9,720円	32億1,622万5,820円	34億7,807万3,900円
2023 年	75億8,020万1,580円	33億4,423万5,010円	42億3,596万6,570円
2024 年	69億5,636万　210円	27億9,008万2,210円	41億6,627万8,000円

（９）競走馬生産振興業務への交付

事業年度	金　額
2022 年	23 億 1,600 万円
2023 年	97 億　　円
2024 年	39 億 5,600 万円

（10）競馬活性化業務への交付

事業年度	金　額
2022 年	16億3,650万9,907円
2023 年	14億3,333万5,000円
2024 年	6億2,479万9,870円

（11）借入金、財政投融資資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

2022 年、2023 年及び 2024 年の各事業年度において、該当ありません。

Ⅱ　日本中央競馬会の概要

１．業務の内容

日本中央競馬会は、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的とし､その目的を達成するため次の業務を行うことが法定されています。

（１）業務内容

①　中央競馬の実施

②　馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

③　調教師及び騎手の免許

④　競走馬の育成

⑤　騎手の養成・訓練

⑥　競馬法第 21 条の規定により委託を受ける競馬の実施に関する事務

⑦　その他競馬の健全な発展を図るため必要な業務

⑧　畜産振興事業等について助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部を交付する業務

⑨　競馬法附則第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に規定する当該勝馬投票の的中者に対し、給付金を交付する業務

⑩　地方競馬全国協会が行う競走馬生産振興業務に対し、交付金を交付する業務

⑪　地方競馬全国協会が行う競馬活性化業務に対し、交付金を交付する業務（2027 事業年度までの間）

（２）根拠規定

日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）第 19 条

競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）第 23 条の 44 第 3 項並びに附則第 5 条及び第 8 条

２．各事務所の所在地

名　称	郵便番号	所　在　地	電話番号
本部	105-0003	東京都港区西新橋 1 丁目 1 番 1 号	03-3591-5251
馬事公苑	158-0098	東京都世田谷区上用賀 2 丁目 1 番 1 号	03-3429-5101
競馬学校	270-1431	千葉県白井市根 835 番地 1	047-491-0333
競走馬総合研究所	329-0412	栃木県下野市柴 1400 番 4 号	0285-44-0090
日高育成牧場	057-0171	北海道浦河郡浦河町字西舎 535 番地の 13	0146-28-1211
宮崎育成牧場	880-0036	宮崎県宮崎市花ケ島町大原 2347 番地	0985-25-3448
栗東 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ･ｾﾝﾀｰ	520-3085	滋賀県栗東市御園 1028 番地	077-558-0101
美浦 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ･ｾﾝﾀｰ	300-0493	茨城県稲敷郡美浦村大字美駒 2500 番地 の 2	029-885-2111
札幌競馬場	060-0016	北海道札幌市中央区北 16 条西 16 丁目 1 番 1 号	011-726-0461
函館競馬場	042-8585	北海道函館市駒場町 12 番 2 号	0138-53-1021
福島競馬場	960-8114	福島県福島市松浪町 9 番 23 号	024-534-2121
新潟競馬場	950-3301	新潟県新潟市北区笹山 3490 番地	025-259-3141
中山競馬場	273-0037	千葉県船橋市古作 1 丁目 1 番 1 号	047-334-2222
東京競馬場	183-0024	東京都府中市日吉町 1 番地の 1	042-363-3141
中京競馬場	470-1132	愛知県豊明市間米町敷田 1225 番地	052-623-2001
京都競馬場	612-8265	京都府京都市伏見区葭島渡場島町 32 番地	075-631-3131
阪神競馬場	665-0053	兵庫県宝塚市駒の町 1 番 1 号	0798-51-7151
小倉競馬場	802-0841	福岡県北九州市小倉南区北方 4 丁目 5 番 1 号	093-962-3236

３．資本金の総額及び政府の出資額並びにこれらの増減

資本金の総額	政府の出資額	前期末比増減
4,924,129,000 円	全額政府出資	増減なし

４．役員の定数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴等　（2025 事業年度末現在）

（１）役員の定数

理事長 1 人、副理事長 1 人、理事 10 人以内及び監事 3 人以内

（２）各役員の氏名、役職、任期、経歴

役　職	氏　名	任　期	経　歴
理 事 長	吉田　正義	2023 年 9 月 12 日～2026 年 9 月 11 日	日本中央競馬会 副理事長
副理事長	山口　英彰	2023 年 9 月 12 日～2026 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 常務理事
常務理事	臼田　雅弘	2025 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日	日本中央競馬会理事
常務理事	植木　　聡	2025 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日	日本中央競馬会理事
理　　事	清水　靖博	2025 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 プロモーション部長
理　　事	菊田　　淳	2025 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 審判部長
理　　事	小林　哲也	2025 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 美浦ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ・ｾﾝﾀｰ場長
理　　事	吉成　公伸	2025 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 競走部長
理　　事	大迫　三徳	2025 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 栗東ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ・ｾﾝﾀｰ場長
理　　事	清水　康行	2025 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 ＤＸ戦略部長
理　　事	伊藤　　幹	2025 年 3 月 1 日～2027 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 競走部長
理　　事	水野　政義	2025 年 10 月 1 日～2027 年 9 月 30 日	日本中央競馬会参与
監　　事	長崎　浩之	2025 年 10 月 1 日～2027 年 9 月 30 日	日本中央競馬会 経理部長
監　　事 （非常勤）	田中佐知子	2024 年 9 月 16 日～2026 年 9 月 15 日	弁護士
監　　事 （非常勤）	小谷実可子	2024 年 9 月 16 日～2026 年 9 月 15 日	ＮＰＯ法人 日本ｵﾘﾝﾋﾟｱﾝｽﾞ協会理事

（３）役員の異動

① 2 月 28 日付けで佐野健吉理事、飯田久隆理事が退任し、翌 3 月 1 日付けで植木前理事が常務理事に、大迫三徳前栗東トレーニング・センター場長、清水康行前ＤＸ戦略部長、伊藤幹前競走部長が理事に任命されました。

② 9 月 30 日付けで橋本次郎理事が退任し、翌 10 月 1 日付けで水野政義前参与が理事に任命されました。

③ 9 月 30 日付けで高嶋民治監事が退任し、翌 10 月 1 日付けで長崎浩之前経理部長が監事に任命されました。

５．職員の定数及びその増減（2025 事業年度末現在）

職員の定数	前期末比増減
1,815 人	10 人増

６．日本中央競馬会の沿革

1954 年	○　日本中央競馬会の設立（9 月 16 日） 1954 年に当時の「日本競馬会」の業務を継承したいわゆる「国営競馬」を引き継いで、競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）により競馬を行う特殊法人として、日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）により設立
1991 年	○　競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 ①　馬主の登録制度並びに調教師及び騎手の免許制度の改善 ②　馬主登録等がより公正に行われるための審査会の設置 ③　日本中央競馬会の剰余金を有効に活用するための特別振興資金及び特別給付資金の新設 ④　競馬振興事業及び畜産振興事業の新設 ⑤　単勝式及び複勝式の勝馬投票の的中者に対し、特別給付金を交付する特別給付業務の新設
2005 年	○　競馬法の一部を改正する法律の施行 ①　中央競馬の実施に関する事務を政令で定めるところにより都道府県等に委託することができることを新たに規定 ②　勝馬投票券の購入等の制限の対象から成年である学生生徒が除外 ③　単勝式及び複勝式の払戻率を改正（特別給付業務は 2004 年末までの分をもって終了） ○　「行政改革の重要方針」の閣議決定（12 月 24 日） ①　現行の組織形態（特殊法人）を継続 ②　競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和 ③　競争入札への移行の促進、子会社等の統合、外部監査の導入等を図ること
2007 年	○　競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 ①　経営委員会の設置 ②　農林水産大臣の関与及び規制の緩和（規約についての関与の緩和、役員の任免等に関して大臣認可を不要とすること等） ③　１号給付金及び２号給付金を交付する業務の新設
2012 年	○　競馬法の一部を改正する法律の施行 払戻金の算出方法の見直し
2015 年	○　競馬法の一部を改正する法律の施行 海外競馬の競走についての勝馬投票の実施
2022 年	○　競馬法の一部を改正する法律の施行 競馬に対する国民の信頼を確保するための措置の充実

７．根拠法　　日本中央競馬会法

８．主務大臣　　農林水産大臣

９．経営委員会の概要（2025 事業年度末現在）

経営委員会は、日本中央競馬会法第 8 条の 2 の規定により設置され、農林水産大臣が任命する委員 6 人及び理事長の 7 人により構成されています。

（１）各委員の氏名、任期及び職名等

氏　名	任　期	職　名　等
柏崎　直巳	2025 年 9 月 1 日～2028 年 8 月 31 日	麻布大学名誉教授
北川　和徳	2025 年 9 月 1 日～2028 年 8 月 31 日	ジャーナリスト（株式会社日本経済新聞社元運動部長）
小堀　秀毅 (委員長)	2025 年 9 月 1 日～2028 年 8 月 31 日	旭化成㈱ 取締役会長
根岸　秋男 (委員長代理)	2025 年 9 月 1 日～2028 年 8 月 31 日	明治安田生命保険相互会社 取締役会長
南木　みお	2025 年 9 月 1 日～2028 年 8 月 31 日	弁護士
山口　真一	2025 年 9 月 1 日～2028 年 8 月 31 日	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授

（２）経営委員会の開催概要

① 第 1 回経営委員会（1 月 15 日）

- 日本中央競馬会職員給与規程の一部改正（案）の議決
- 2025 年度組織の見直し（案）の議決　ほか

② 第 2 回経営委員会（2 月 14 日）

- 役員の任命（案）の議決　ほか

③ 第 3 回経営委員会（3 月 13 日）

- 2024 事業年度決算（案）の議決　ほか

④ 第 4 回経営委員会（4 月 18 日）

- 2024 事業年度経営目標の達成状況に係る自己評価の報告　ほか

⑤ 第 5 回経営委員会（5 月 23 日）

- 日本中央競馬会職員給与規程の一部改正（案）の議決

・ 佐世保場外勝馬投票券発売所の廃止及び廃止に伴う不動産の譲渡（案）の議決
・ 2024 事業年度経営目標の達成状況の評価（案）の議決　ほか

⑥ 第 6 回経営委員会（6 月 19 日）
・ 中央競馬概況の報告　ほか

⑦ 第 7 回経営委員会（7 月 17 日）
・ 競馬法第 8 条第 1 項の規定により日本中央競馬会が定める率（案）の議決 ほか

⑧ 第 8 回経営委員会（8 月 28 日）
・ 監事 3 名より提出のあった 7 月 17 日付け意見書の「第 1 監事の意見」に掲げられた決定事項の議決　ほか

⑨ 第 9 回経営委員会（9 月 19 日）
・ 役員の任命（案）の議決
・ 2026 事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）の議決　ほか

⑩ 第 10 回経営委員会（10 月 14 日）
・ 渋谷場外勝馬投票券発売所の建替え(案)の議決 ほか

⑪ 第 11 回経営委員会（11 月 18 日）
・ 2026 事業年度経営目標（案）の決定
・ 2026 事業年度事業計画（案）の議決
・ 2026 事業年度収支予算（案）の議決
・ 事実調査・ガバナンス検証委員会の設置(案)の議決
・ 経営委員会に報告を要する事項に関する申合せ事項（案）の議決　ほか

⑫ 第 12 回経営委員会（12 月 11 日）
・ 日本中央競馬会役員給与規程の一部改正（案）の議決
・ 日本中央競馬会職員給与規程等の一部改正（案）の議決 ほか

（３）委員の異動

8 月 31 日付けで片山雅文委員、酒井順子委員、田島優子委員、眞鍋昇委員、山西健一郎委員が退任し、翌 9 月 1 日付けで小堀秀毅氏が再任され、柏崎直巳氏、北川和徳氏、根岸秋男氏、南木みお氏、山口真一氏が新たに任命されました。

１０．運営審議会の概要（2025 事業年度末現在）

日本中央競馬会法第 16 条の規定により、日本中央競馬会の業務の執行に関する重要事項を調査審議するため、理事長が農林水産大臣の認可を受けて任命する者により構成される運営審議会が設置されています。

（１）各委員の氏名、任期及び職名等

氏　名	任　期	職　名　等
大西　　洋	2025 年 9 月 16 日～2027 年 9 月 15 日	㈱羽田未来総合研究所 代表取締役社長執行役員
木村　昌三	2025 年 9 月 16 日～2027 年 9 月 15 日	日本馬主協会連合会　会長
佐藤　藍子	2025 年 9 月 16 日～2027 年 9 月 15 日	俳優
鈴木　淑子	2025 年 9 月 16 日～2027 年 9 月 15 日	競馬ジャーナリスト
武　　豊	2025 年 9 月 16 日～2027 年 9 月 15 日	日本騎手クラブ　会長
中竹　和也	2025 年 9 月 16 日～2027 年 9 月 15 日	(一社)日本調教師会　会長
蓮見　恭子	2025 年 9 月 16 日～2027 年 9 月 15 日	小説家
古川　雅且	2025 年 9 月 16 日～2027 年 9 月 15 日	日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長
本川　一善	2025 年 9 月 16 日～2027 年 9 月 15 日	農林水産技術会議　会長
宮下真理子	2025 年 9 月 16 日～2027 年 9 月 15 日	日本画家

（２）運営審議会の開催概要

① 第 1 回運営審議会（3 月 6 日）

- 2024 事業年度決算（案）

② 第 2 回運営審議会（8 月 28 日）　※書面表決

- 2026 事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）について

③ 第 3 回運営審議会（11 月 6 日）

- 2026 事業年度事業計画（案）について
- 2026 事業年度収支予算（案）について
- 日本中央競馬会競馬施行規程の一部改正（案）について

（３）委員の異動

① 4 月 30 日付けで西川賢委員が退任し、5 月 1 日付けで木村昌三氏が新たに委員に任命されました。

② 9月16日付けで大西洋氏、木村昌三氏、佐藤藍子氏、鈴木淑子氏、武豊氏、中竹和也氏、蓮見恭子氏、古川雅且氏、本川一善氏、宮下真理子氏が委員に再任されました。

１１．公正審査会議の概要（2025事業年度末現在）

日本中央競馬会法第20条の規定に基づき、馬主の登録・抹消、調教師及び騎手の免許・取消し、行政不服審査法による審査請求に対する裁決などについて意見を聴くため、理事長が学識経験者から公正審査委員を任命し、委員による公正審査会議を開催しました。

（１）各委員の氏名、任期及び経歴

氏　名	任　期	経　歴
石木　俊治	2025年9月7日～2027年9月6日	元 内閣法制局第四部長
石原　葵	2025年9月7日～2027年9月6日	元 日本中央競馬会副理事長
酒井　邦彦	2025年9月7日～2027年9月6日	弁護士
酒井　啓子	2025年9月7日～2027年9月6日	千葉大学グローバル関係融合研究センター長
田中　勝也	2025年9月7日～2027年9月6日	元 警察庁刑事局長
福沢　恵子	2025年9月7日～2027年9月6日	(公財)日本女性学習財団評議員
堀越　礼子	2025年9月7日～2027年9月6日	(株)朝日新聞社常務取締役

（２）公正審査会議の開催概要

① 第1回公正審査会議（1月10日）
- 馬主登録について（法人馬主の限定的代表者変更1件）
- 馬主登録について（組合馬主の組合員変更5件）

② 第2回公正審査会議（2月7日）
- 2025年度調教師免許（更新）及び騎手免許（更新・新規）について
- 馬主登録について（相続馬限定1件）
- 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録4件）

③ 第3回公正審査会議（4月10日）
- 2025年第1回馬主登録審査に係る馬主登録について（49件）
- 馬主登録について（相続馬限定1件）
- 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録3件）

・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
・ 馬主登録について（法人馬主の限定的代表者解除 1 件）

④ 第 4 回公正審査会議（5 月 8 日）
・ 馬主登録審査基準及び馬主登録取消ガイドラインの改正
・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 2 件）

⑤ 第 5 回公正審査会議（6 月 5 日）
・ 馬主登録について（相続馬限定 3 件）
・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 2 件）

⑥ 第 6 回公正審査会議（7 月 10 日）
・ 2025 年第 2 回馬主登録審査に係る馬主の登録について（68 件）
・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 2 件）
・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
・ 馬主登録について（個人馬主登録取消しの猶予 1 件）

⑦ 第 7 回公正審査会議（9 月 5 日）
・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 1 件）
・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録 1 件）
・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更 1 件）

⑧ 第 8 回公正審査会議（10 月 3 日）
・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 2 件）

⑨ 第 9 回公正審査会議（11 月 13 日）
・ 2025 年第 3 回馬主登録審査に係る馬主の登録について（96 件）
・ 馬主登録について（相続馬限定 2 件）
・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 2 件）
・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更 1 件）

⑩ 第 10 回公正審査会議（12 月 10 日）
・ 2026 年度調教師免許（新規）について
・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 1 件）
・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録 1 件）
・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 4 件）

（３）委員の異動

① 5 月 31 日付けで井上美昭氏が退任し、翌 6 月 1 日付けで田中勝也氏が新たに委員に任命されました。

② 9 月 7 日付けで石木俊治氏、石原葵氏、酒井邦彦氏、酒井啓子氏、田中勝也氏、福沢恵子氏、堀越礼子氏が委員に再任されました。

Ⅲ　子会社等に関する事項（2025 事業年度末現在）

１．子会社等の状況

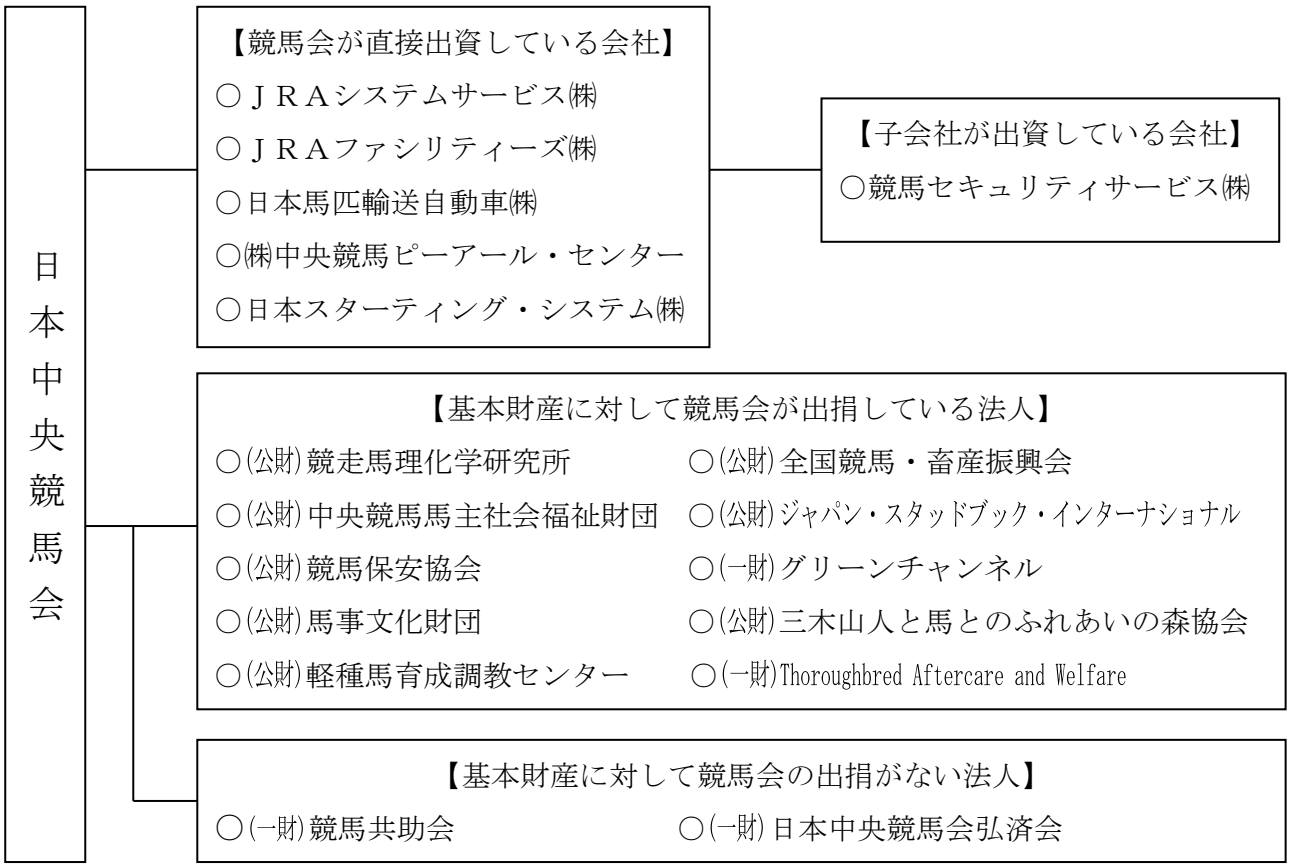
日本中央競馬会法施行規則（昭和 29 年農林省令第 56 号）第 10 条第 3 号に定める子会社等の状況は以下のとおりです。

（１）子会社：ＪＲＡシステムサービス㈱、ＪＲＡファシリティーズ㈱、日本馬匹輸送自動車㈱、㈱中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム㈱、競馬セキュリティサービス㈱

（２）関連会社：なし

（３）関連一般社団法人等：(公財)競走馬理化学研究所、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(公財)競馬保安協会、(公財)馬事文化財団、(公財)軽種馬育成調教センター、(公財)全国競馬・畜産振興会、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(一財)グリーンチャンネル、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会、(一財)Thoroughbred Aftercare and Welfare 、(一財)競馬共助会、(一財)日本中央競馬会弘済会

【日本中央競馬会と子会社等との関係を示した図】



２．子会社の名称、住所、資本金、事業内容、役員数、代表者の氏名、従業員数、日本中央競馬会の所有する議決権の議決権の総数に対する割合及び日本中央競馬会との関係

子会社の名称・住所 代表者の氏名 資本金 競馬会の議決権所有割合	主な事業内容	売上高 当期純利益 利益剰余金 （2024年決算額）	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア　売上高中の競馬会との取引額 (2024年実績) イ　競馬会との重要な取引の概要 ウ　競馬会役員の兼任状況
		(百万円)	(人)	
ＪＲＡシステムサービス㈱ 【2007年10月設立】 東京都江東区永代1-14-5 代表取締役社長　木村　一人 ５００，０００千円 ５４．５％（子会社を含めた議決権の所有割合１００％）	・トータリゼータシステム及び各種情報処理システム並びにそれらのシステムに関連する機器の運用及び保守整備 ・競馬に関する情報の提供 ・各種機器・車両及び競馬用諸設備の売買及び賃貸借並びにそれらに付帯する物品の売買及び賃貸借	２６，９４４ ４７２ ７，８４５	１５ （１１） ５８２	ア　２３，８９６百万円 イ　・トータリゼータシステム等の運用保守管理業務 ・トータリゼータシステム等のソフトウェア開発業務 ・競馬に関する情報提供システムの運用業務 ウ　なし
ＪＲＡファシリティーズ㈱ 【2007年10月設立】 東京都中央区八丁堀3-19-9 代表取締役社長　木所　康夫 ３００，０００千円 ９４．９％（子会社を含めた議決権の所有割合１００％）	・建物、馬場、造園及び各種設備の保守管理並びに関連資材の販売 ・施設等の清掃、環境衛生、防疫、廃棄物の管理及び警備 ・出走馬一覧表等各種刊行物の作製及び版下作成 ・飼糧、敷料及び添加物等の輸入並びに販売 ・損害保険代理業及び生命保険の募集等	２６，２４０ ６２６ １２，５２４	１４ （１０） ５００	ア　２１，１５７百万円 イ　・競馬場等の建物、設備、馬場等の保守管理業務 ・競馬場等の清掃管理業務及び清掃業務 ・レーシングプログラムの作製 ・建物、設備、馬場等の設計管理業務 ウ　なし
日本馬匹輸送自動車㈱ 【1947年8月設立】 東京都港区新橋6-20-11 代表取締役社長　谷﨑　　潤 ３６，０００千円 １００％	・競走馬の輸送	２，２９１ ４７ １，７３４	５ （３） １０３	ア　２，２５９百万円 イ　・競走馬輸送業務 ウ　なし
㈱中央競馬ピーアール・センター 【1978年10月設立】 東京都港区新橋4-5-4 代表取締役社長　新屋　勇人 ２０，０００千円 ６４．３％（子会社を含めた議決権の所有割合１００％）	・競馬及び馬文化等に関する図書及び印刷物の企画、編集、制作、出版及び販売 ・競馬及び馬文化等に関する映像業務、音声業務並びにその機器の運用、開発、販売、賃貸及び保守整備 ・競馬及び馬文化等に関する各種情報の収集及び提供	８，２５７ ５３２ ３，１９９	８ （６） １３２	ア　３，９５０百万円 イ　・映像伝送ネットワークシステム運用保守管理業務 ・競馬実況中継放送代理業務 ウ　なし
日本スターティング・システム㈱ 【1965年9月設立】 東京都港区新橋6-14-3 代表取締役社長　重松　裕之 １０，０００千円 １００％	・発馬機及びその周辺機器等の運用並びに保守整備 ・発馬機及びその周辺機器の賃貸並びに販売 ・競走馬の発走に関する補助	１，７７９ ７９ １，７２７	７ （４） ７２	ア　１，７６０百万円 イ　・発馬機作業及び機材輸送業務 ウ　なし
競馬セキュリティサービス㈱ 【1992年11月設立】 東京都港区西新橋3-2-1 代表取締役社長　小日向　照夫 １００，０００千円 ０％(子会社を含めた議決権の所有割合１００％)	・警備業法に基づく警備業務 ・労働者派遣業務 ・競馬開連施設における案内、管理とその施行に関する業務	４，３２４ １３５ ２，６３３	４ （２） １１６	ア　３，７２５百万円 イ　・競馬場等の常駐警備業務 ・競馬開催に係る警備業務、案内業務及び競馬開催補助業務 ウ　なし

３．関連一般社団法人等の名称、住所、基本財産、事業内容、役員数、代表者の氏名、職員数及び日本中央競馬会との関係

※表中の基本財産、年間収入、競馬会支出額は 2024 年決算時点のもの

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (※)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア　年間収入中の競馬会支出額 (2024 年実績) イ　競馬会の業務との関係及び競馬会との重要な取引の概要 ウ　競馬会役員の兼任状況
		(百万円)	(人)	
(公財)競走馬理化学研究所 【1965 年 8 月設立】 栃木県宇都宮市砥上町 321-4 理事長　　横田　貞夫 １，０３０，１３７千円	・競走馬に施用される薬品及び薬剤の検査及び研究 ・騎手に施用され、又は騎手が使用する薬品及び薬剤の検査及び研究 ・馬の親子判定及び個体識別に係る検査及び研究 ・農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等の検査及び研究	２，３４７	６ (３) ５９	ア　１，１８８百万円 イ　「日本中央競馬会競馬施行規約」に定める競走馬に係る薬物検出機関 ・競走馬薬物検査業務 ・薬物検査法の開発に関する委託研究業務 ウ　なし
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団 【1969 年 10 月設立】 東京都港区虎ノ門 1-2-10 理事長　　畑山　光伸 ５，５１８，０１７千円	・社会福祉を目的とする事業に対する助成 ・社会福祉事業関係者の研修事業に対する助成 ・中央競馬関係者の福利厚生の向上のための事業	７００	１１ (１) ６	ア　なし イ　競馬会が馬主に交付した競馬賞金の一部を使用してその事業を実施 ウ　理事（非常勤）　吉田　正義（競馬会理事長） 理事（非常勤）　臼田　雅弘（競馬会常務理事）
(公財)競馬保安協会 【1971 年 5 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長　　牛嶋　正人 １０，０００千円	・競馬の公正確保のために必要な調査並びに情報及び資料の収集	１，７２４	５ (５) １４３	ア　１，５１１百万円 イ　競馬の公正確保上必要な調査等を実施 ウ　なし
(公財)馬事文化財団 【1976 年 4 月設立】 神奈川県横浜市中区根岸台 1-3 理事長　　高橋　敦樹 １，９１７，５３３千円	・馬に関する文献、標本、写真、フィルム等の博物資料（以下「馬事博物資料」）の収集、保管及び展示 ・馬事博物資料に関する印刷物の編集及び刊行 ・根岸競馬記念公苑の馬の博物館その他施設の管理運営	９６２	７ (２) ２２	ア　５３４百万円 イ　根岸競馬記念公苑「馬の博物館」、東京競馬場「ＪＲＡ競馬博物館」及び「Ｇａｔｅ Ｊ.」の管理運営等を実施 ウ　なし
(公財)軽種馬育成調教センター 【1991 年 3 月設立】 北海道浦河郡浦河町字西舎 528 理事長　　草野　広実 １，０００，０００千円	・軽種馬の育成調教技術の改善・普及 ・育成調教技術者の養成 ・共同利用に供する育成調教施設の運営・管理	９１７	８ (２) ４２	ア　５５２百万円 イ　日高育成牧場の日高育成総合施設軽種馬育成調教場の管理運営等を実施 ウ　なし
(公財)全国競馬・畜産振興会 【1991 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 会　長　　中村　嘉宏 １，０００，０００千円	・競馬の健全な発展を図るための事業に対する助成 ・畜産の振興に資するための事業等に対する助成	１９８	７ (２) １１	ア　１３９百万円 イ　競馬の健全な発展を図るための事業並びに畜産振興事業等に対する助成等を実施 ウ　なし

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入	役員数 (うち常勤) 職員数	競馬会との関係 ア　年間収入中の競馬会支出額 (2023年実績) イ　競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ　競馬会役員の兼任状況
		(百万円)	(人)	
(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 【2010年12月設立】 東京都港区新橋4-5-4 理事長　　福井　紳弥 １，０４０，８３０千円	・海外における競馬に関する情報の収集及び提供並びに我が国の競馬に関する情報の海外への提供 ・競馬の施行、競走馬の育成に関する海外の競馬関係者との技術の交流 ・軽種馬の登録及び登録証明書の発行	９９３	7 (3) ３７	ア　５０４百万円 イ　競馬会が必要とする海外における競馬に関する情報の収集・提供及び競馬会の行う馬の登録の基礎となる軽種馬の血統登録等を実施 ウ　監事（非常勤）　菊田　　淳 （競馬会理事）
(一財)グリーンチャンネル 【1993年9月設立】 東京都江東区永代1-14-5 理事長　　勝見　浩二 １，０００，０００千円	・競馬、馬事文化及び農林水産業等に関する番組の放送、供給及び配信業務 ・競馬、馬事文化及び農林水産業等に関する番組の制作、編集及びその支援	５，３０９	8 (4) ２４	ア　１，０７３百万円 イ　中央競馬等の映像情報に関する番組制作、放送等を実施 ウ　なし
(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会 【1994年6月設立】 兵庫県三木市別所町高木 三木ホースランドパーク 理事長　　佐野　健吉 ２００，０００千円	・野外体験活動等の実施、指導並びに支援 ・馬事に関する普及啓発 ・乗馬施設等馬事に関する施設の整備及び維持管理	６５９	8 (1) ２１	ア　４１９百万円 イ　兵庫県三木市における乗馬施設等馬事に関する施設の管理運営等を実施 ウ　なし
(一財)Thoroughbred Aftercare and Welfare 【2024年2月設立】 東京都港区西新橋1-19-4 理事長　　阿部　智己 ４０，０００千円	・引退競走馬の利活用促進や養老・余生の機会拡充等に関する事業等の実施	３７６	8 (2) １３	ア　３７５百万円 イ　引退競走馬の一時休養施設運営等を実施 ウ　なし
(一財)競馬共助会 【1948年9月設立】 東京都府中市日吉町1-1 会　長　　吉﨑　一郎 １，５００，０００千円	・厩舎関係者等に対する福利厚生に関する事業 ・診療所及び厚生施設の運営 ・競馬場等における売店等の運営及び安全衛生に関する業務	３，０３８	7 (3) ８８	ア　８３８百万円 イ　中央競馬厩舎関係者の福利厚生団体 ウ　理事（非常勤）　清水　靖博 （競馬会理事）
(一財)日本中央競馬会弘済会 【1964年12月設立】 東京都港区西新橋1-1-1 会　長　　峯島　善弘 １，６００，０００千円	・中央競馬及び畜産の健全な発展並びに馬事文化の普及に寄与する事業 ・職員の福利厚生に関する事業	１７４	8 (2) 5	ア　１百万円 イ　競馬会職員の福利厚生団体 ウ　なし

Ⅳ　日本中央競馬会が対処すべき課題

１．閣議決定

（１）「特殊法人の整理合理化について」（1995 年 2 月 24 日閣議決定）

地方競馬との交流競走の拡大を図るとともに、通信衛星による競馬映像情報の提供、地方競馬場における中央競馬の勝馬投票券の発売等を進めることにより、ファンサービスの改善と地方競馬への支援に努める。また、勝馬投票券の発売・払戻の自動化等により勝馬投票業務の効率化に努める。

（２）「特殊法人等整理合理化計画」（2001 年 12 月 19 日閣議決定）

管理経費・競走事業費の削減など更なる事業の効率化を図る。その一環として、公正確保と両立させつつ、一般競争入札等の範囲を大幅に拡大するとともに、関係会社等に対する委託費等を削減する。

（３）「行政改革の重要方針」（2005 年 12 月 24 日閣議決定）

事　業

【助成金交付事業】

○　当事業の透明性向上のためにこれまで講じている外部有識者委員会による助成事業の選定・評価、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律の規定の準用等に加え、助成事業の評価結果を全面的に公表する仕組みを導入する。

○　国の畜産関係補助金との役割分担を明確化する。

【中央競馬関係事業】

○　競争性のある契約のうち競馬の公正・中立性の確保上支障のない契約については、そのすべての契約を、2010 年までのできる限り早い時期に競争入札に移行させる。

○　子会社・関係会社の組織・事業の再編・統廃合を実施する。

○　入札結果・経営内容等の情報開示を一層進める。

【その他】

○　外部監査を導入する。

組　織

○　組織運営について、一層の効率化を図るため、次の措置を講ずる。

・　競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和

・　内部組織として学識経験者等で構成される中立性を有する機関の設置

・　当該機関による定量的な経営目標の設定及び業績評価の実施

・　当該経営目標の公表及び当該業績評価の結果の公表

・　経営不調時における役員解任規定導入

２.「特殊法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告（日本中央競馬会）」

（2002 年 1 月 18 日総務大臣から農林水産大臣へ勧告）

支出の見直しについて

（１）経費の節減等

ア）　施設整備の抑制

イ）　施設利用料の適正化

ウ）　子会社等との契約の見直し

エ）　窓口業務の自動化に伴う要員縮減の推進

オ）　競走事業費の支出の抑制

（２）ウインズの新設の抑制と運営の効率化

（３）抽せん馬制度の見直し

３.「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴う情報公開への適切な対応（2002 年 10 月 1 日法律施行）

４.「ギャンブル等依存症対策基本法」の施行に伴う適切な対応（2020 年 10 月 5 日法律施行）

この事業報告書は、日本中央競馬会法施行規則第 10 条の規定に基づき、記載しています。なお、日本中央競馬会の事業年度は、1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっています。

ＪＲＡの事業活動について

（2025 事業年度）

－ＪＲＡは、毎週走り続けます。－

（2025 事業年度事業報告書別冊）

はじめに

2025事業年度においてＪＲＡは、「お客様とともに」「夢と感動とともに」「信頼とともに」「社会とともに」「そして未来へ」の5項目で構成する「経営の基本方針」に沿って事業活動を行いました。

その結果、競馬の開催については、全国10か所の競馬場において、2025事業年度の経営目標の基本目標の一つである、「事業運営の根幹となる開催日数288日（36開催）の競馬の着実な実施」を達成することができました。

また、もう一つの基本目標である「競馬の魅力の向上」についても、お客様総数は延べ2億1,158万人余（対前年比103.5％）、発売金は3兆5,385億円余（対前年比：105.2％）とともに前年を上回る結果となり、多くのお客様にご参加いただくことができました。

ＪＲＡは、こうした2025事業年度の事業活動の結果を的確にフィードバックし、国際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬の魅力を更に向上させるとともに、少子高齢化の一層の進行が見込まれる中、今後ともより多くのお客様にお楽しみいただけるよう、競馬番組の充実と質の高い競走の提供をはじめとした様々な施策を実施してまいります。また、中央競馬が社会やお客様からの信頼の上に成り立っていることを改めて認識し、信頼を損なうような行為の防止を徹底するなど、競馬の根幹である公正確保に引き続き取り組んでまいります。

さらに、ＳＤＧｓ〔Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）〕や気候変動、馬の福祉といった中央競馬を取り巻く諸課題に積極的に取り組むとともに、ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、事業運営の更なる効率化・安定化を図ってまいります。

加えて、ＪＲＡさらには競馬産業全体が安定的かつ持続的に発展していくためには、競馬の施行が環境や経済等社会全体に与える影響とＪＲＡを取り巻く環境を意識しつつ、競馬の社会的基盤を強化していくことが必要となります。こうしたことから、今後とも、お客様からも社会からも「信頼される存在」であり続けること、ＪＲＡ及び競馬産業の事業基盤を強化していくこと、中央競馬事業の運営等に必要な原資を安定的に確保していくことに取り組んでまいります。

＜目次＞

○　2025事業年度事業計画に掲げた項目の実施概況

１．魅力ある競走の提供・・・

○　2025事業年度事業計画に掲げた項目の実施概況

１．魅力ある競走の提供

(1)　開催計画

1月5日（日）から12月28日（日）の間に、延べ288日（36回）の競馬を全国10か所の競馬場において開催しました。

また、より多くのお客様にご参加いただくため、1月13日（祝・月）、9月15日（祝・月）、10月13日（祝・月）及び11月24日（休・月）に競馬を開催しました。

なお、各競馬場の開催回数及び開催日数は以下のとおりです。

競馬場	札　幌	函　館	福　島	新　潟	中　山
開催回数	2	1	3	4	5
開催日数	14	12	20	24	42

競馬場	東　京	中　京	京　都	阪　神	小　倉
開催回数	5	5	4	5	2
開催日数	45	33	39	39	20

(2)　重賞競走の改善

①　宝塚記念（ＧⅠ）の実施時期等の変更

暑熱及び梅雨の影響等を考慮し、宝塚記念（ＧⅠ）の実施時期を2週繰り上げて実施しました。なお、出走頭数は17頭（前年13頭）、発売金は約262億円（対前年比106.7%）となりました。

②　ＧⅠ競走前哨戦の実施時期等の変更

ＧⅠ競走の前哨戦について、近年の馬の出走動向の変化を踏まえ、当該ＧⅠ競走との間隔を広げるため、実施時期等を変更しました。

③　しらさぎステークス（新設重賞）のＧⅢ昇格

米子ステークス（Ｌ）について、夏季競馬のマイル路線の拡充を目的とし、競走名をしらさぎステークスに変更のうえ、格付表記を変更しました。

④　開催日割の変更による重賞競走の配置の見直し

開催日割の変更に伴い、一部重賞競走の実施時期・実施場等を変更しました。

(3)　国内外の一流馬及び騎手の参加促進

スプリンターズステークスに1頭（香港）、マイルチャンピオンシップに1頭（イギリス）、ジャパンカップに1頭（フランス）と、延べ3頭の外国馬が出走しました。特にジャパンカップは、カルティエ賞の年度代表馬に選出されたカランダガンが参戦し、外国調教馬として20年ぶりに勝利を収めて大きな話題を呼びました。

また、8月23日（土）・24日（日）（第2回札幌競馬第1・2日）に、外国騎手6名（アメリカ、アルゼンチン、オーストラリア、ドイツ、香港）と地方競馬所属騎手1名（船橋）を招待して、「ワールドオールスタージョッキーズ」を開催しました。

(4)　国際交流に関する取組み

延べ 97 頭のＪＲＡ所属馬がカタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、オーストラリア、香港、アメリカ、イギリス、韓国、アイルランド、フランスに遠征し、12 競走で優勝しました。

また、ＩＦＨＡ（国際競馬統括機関連盟）が発表した「2025 年世界のトップ 100ＧⅠ 競走」において、ジャパンカップがイギリスのチャンピオンステークスと共に「2025 年ロンジンワールドベストレース」を受賞したほか、同レースを含む 15 競走が 100 位以内にランクインしました。

さらに、併せて発表された「2025 年度ロンジンワールドベストレースホースランキング」において、レーティング 115 以上の 279 頭のうち、日本調教馬は 54 頭が掲載され、国別の掲載頭数は、イギリスと並んで第 1 位タイとなりました。これは初めて第 1 位になった 2024 年に続き、2 年連続となります。

こうした取組みの他、条件別の競走数の適切な配置等の効果により、近年減少傾向にあった年間の出走延べ頭数が前年より増加しました。

２．競走馬の資質・能力の向上等への取組み

(1)　競走馬の生産育成を通じた取組み

ＪＲＡが生産した馬（ＪＲＡホームブレッド）28頭（当歳10頭、1歳9頭及び2歳9頭）及び1歳市場で購入した馬148頭（2024年購買の2歳馬74頭及び2025年購買の1歳馬74頭）を、日高・宮崎の育成牧場において育成しました。

また、育成した競走馬（ＪＲＡ育成馬）を4月に中山競馬場で開催したＪＲＡブリーズアップセール（会場及びオンラインによるハイブリッド方式）で75頭を、6月に開催したＪＲＡコンソレーションセール（インターネットオークション方式）で6頭をそれぞれ売却しました。

(2)　生産育成基盤の強化

強い馬づくりを推進し、競馬の国際交流の進展に対応し得る生産育成基盤の強化を図るため、諸団体が実施する軽種馬生産関連事業への助成等の協力を行いました。

(3)　競走馬の保健衛生対策

競走馬総合研究所等において、スポーツ科学、スポーツ障害、生産育成及び伝染病対応に関する研究を行いました。（別表11）

また、7月に「第53回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」、12月に「第67回競走馬に関する調査研究発表会」を開催し、それらの研究成果の普及に努めました。

(4)　競走馬の事故防止対策

競走時及び調教時における競走馬の事故（骨折等）の発生状況を随時調査・分析するとともに、「競走馬事故防止対策委員会」による実施計画に基づき、厩舎関係者への啓発活動や調教施設及び馬場の保全管理等、事故の減少を目的とした各種対策を講じました。

また、致死性疾患発症馬に対する病因究明体制の構築を目指すとともに、死後画像診断の有用性を検討し、調査研究発表会において報告することにより厩舎関係者等に対してフィードバックを行いました。

(5)　競走馬の暑熱対策

第2回新潟競馬及び第3回中京競馬において、気温が特に高い時間帯での競馬を休止し、気温による影響が比較的小さい時間帯に競馬を実施しました。この結果、競走を行っている時間帯のうち、熱中症リスクが高まるＷＢＧＴ値（暑さ指数）28℃以上の時間の割合が、通常の開催と比べ1割～2割程度減少する効果がありました。また、夏季競馬期間中を通して、装鞍所集合時刻の繰下げ及び下見所周回時間の短縮の取組みを実施しました。

さらに、函館競馬場に馬体冷却用シャワーの設置を行い、全競馬場での設置が完了しました。

(6)　防疫体制の整備

入厩検疫や定期検査、予防接種、衛生作業等の防疫業務を着実に実施するとともに、海外の伝染病の発生状況等の情報を収集・周知することで、適切な防疫体制の整備を行いました。また、適切な飼養管理法を周知することにより、ワクチン接種率や衛生環境の改善を図り、国内の防疫体制を強化しました。

(7)　競走関連施設の充実

美浦トレーニング・センターにおいて、厩舎改築工事（2025 年 9 月竣工）を実施しました。また、栗東トレーニング・センターにおいて、逍遙馬道改造工事（2025 年 5 月竣工）を実施しました。

(8)　馬主活動の促進

各種媒体での馬主活動のＰＲや馬主登録ガイドの配布、競馬観戦会の実施等により馬主の新規開拓を進めました。また、新規馬主を対象としたオリエンテーションや永年馬主表彰、ＧⅠ競走出走馬主等への記念品贈呈等を実施するとともに、馬主向けの情報提供の充実等を図るなど、馬主活動の促進に向けた取組みを行いました。

こうした取組みにより、2025 年末時点における馬主の登録数は前年より 132 名増加し、2,991 名となりました。

(9)　厩舎運営の活性化

引き続き、厩舎におけるウォーキングマシン導入の支援を行い、新たに 38 厩舎が導入するなど、厩舎従業員の労働環境の改善や業務の効率化等、厩舎運営の総合的な改善に取り組みました。

(10)　厩舎関係者の養成等

競馬学校の騎手課程において、2 月に 7 名（41 期）が卒業し、3 月 1 日付で騎手免許を取得しました。また、厩務員課程において、47 名が卒業しました。

また、新規騎手免許取得者や見習騎手に対して、技術及び知識の習得・向上を図るため、各種研修等を実施しました。さらに、ＪＲＡ及び地方競馬所属の見習騎手による「ヤングジョッキーズシリーズ」を実施しました。

３．競馬の公正確保等の徹底

(1)　登録・免許業務及び制裁等の厳正な実施

馬主・競走馬・服色の登録及び調教師・騎手に対する免許業務について、法令に従い、公正審査委員の意見を聴いたうえで、厳正に実施しました。

また、騎手への制裁として、騎乗停止 29 件、過怠金 461 件、戒告 524 件の制裁を行いました。

(2)　薬物の不正使用事案等の未然防止

薬物の使用について、厩舎関係者への指導・研修を実施するとともに、禁止薬物等の飼料への混入防止のため、販売業者への講習会や薬物検査の受検状況の把握、配合飼料製造工場の査察を行いました。

また、騎手のドーピング検査について、尿検体を用いた理化学検査を 40 件、呼気によるアルコール検査を 48 件実施しました。

(3)　競馬に対する信頼確保に向けた取組み

競馬の公正を害し、又は競馬に対する社会的な信頼を損なうおそれのある行為を未然に防止するため、研修等を通じて厩舎関係者等の法令や社会規範等の遵守に対する意識の徹底を図りました。また、調整ルームにおけるスマートフォンの不正使用事案を受け、引き続き入室時の通信機器検査を実施するほか、高機能ポータブル携帯電話探知機を導入し、検査精度の向上に努めました。

さらに、厩舎関係者を対象としたＪＲＡへの情報提供の専用窓口(ホットライン)を引き続き運用しました。

なお、9 月に発生した札幌競馬場にて入厩検疫時にＪＲＡの確認ミスにより馬が入れ替わり、競走除外に繋がった事案を受け、検査実施体制の見直しを行いました。

(4)　反社会的勢力排除への取組み

関係機関と連携し、お客様の安全確保及び競馬場・ウインズ等内外の秩序維持に努めました。

(5)　自主警備体制の整備

厩舎エリアへの防犯カメラの設置を進めるとともに、通門管理や巡回等を徹底することにより、お客様エリア等の施設内における安全確保や違法行為の防止に努めました。

(6)　裁決事項の協調等

12 月の香港で開催された競走ルールの調和委員会に出席し、諸外国の委員と意見交換を行い、将来的な国際競走ルールの方向性について検討を行いました。

また、地方競馬全国協会との情報連絡会議を通じて、競走ルールや制裁基準に関する意見交換を行い、また開催中に発生した事案の対応等について情報収集を行いました。

４．競馬への参加促進及び販売促進

(1)　プロモーションの展開

「Ｈｅｌｌｏ，Ｓｐｅｃｉａｌ　Ｔｉｍｅｓ．」をキャッチコピーに仲間と一緒に競馬を楽しむ特別な時間やスポーツエンターテインメントとしての競馬の魅力を余すことなく伝え、毎週末の競馬が待ち遠しくなるような年間プロモーションを新たに展開しました。

また、ＪＲＡ公式のＳＮＳを活用し、X、Facebook、Instagramにおいて引き続き中央競馬の話題を拡散するとともに、YouTube ではジョッキーカメラ映像等コンテンツの充実を図り、2025 年末時点のチャンネル登録者数は前年より約 12 万人増加して約 79 万人となりました。

さらに、ＪＲＡの公式競馬エンターテインメントサイト「ＪＲＡ　ＦＵＮ」において、新たにオンラインコミュニティ「ＪＲＡ　ＦＵＮ　ＣＬＵＢ」の立ち上げ、YouTubeチャンネルにおける動画配信やメインレースを中心としたライブ配信、掲示板の運営等のＷＥＢプロモーションを展開しました。

加えて、中央競馬の歴史と社会性、人と馬との関わり、お客様への感謝を表現の軸としたブランド広告「未来へ、走り続ける。」を引き続き放映しました。

(2)　広報活動の展開

祝日や平日の競馬開催日も含めてテレビ・ラジオによる競馬中継の放送枠を安定的に確保しました。また、ＪＲＡの認知度向上や競馬に関する話題作りを図るため、年間を通じてミニ番組の提供を行ったほか、春秋のＧⅠシーズンを盛り上げるため、バラエティ番組、スポーツ番組及び情報番組におけるパブリシティやミニ番組の放送等を行いました。

さらに、ＪＲＡで馬券を発売する海外競馬について、出走馬データや遠征馬の近況等の情報をお客様へ迅速に提供するとともに、グリーンチャンネル（ノースクランブル放送）及びラジオＮＩＫＫＥＩにおいて、全ての発売対象レースを放送したほか、ドバイワールドカップと凱旋門賞については、地上波での中継も実施しました。また、お客様の注目度の高いドバイ諸競走、凱旋門賞、香港国際競走については、新聞及びＷＥＢでのプロモーションを展開しました。

こうした取組みにより、凱旋門賞の発売金が馬券発売を行った海外競走としては過去最高となる約 66 億円を記録するなど、年間を通じて多くのお客様に海外競馬へご参加いただきました。

(3)　競馬場・ウインズ等の活性化

①　お客様層に応じたアプローチ

競馬場において、延べ 18,516 人にビギナーズセミナーを、延べ 26,080 人にビギナーズカウンターをご利用いただきました。

また、103,189 人の女性のお客様にＵＭＡＪＯスポットをご利用いただきました。

さらに、65歳以上のお客様に無料でご利用いただける座席について、ＧⅠ競走当日を中心に拡充しました。

② 周年記念イベント等の実施

開設から節目の年を迎えた京都競馬場（100 周年）、新潟競馬場（60 周年）、ウインズ立川（40 周年）、ウインズ石和（40 周年）、エクセル田無（30 周年）、ウインズ小郡（20 周年）において、記念イベント等を実施しました。

特に京都競馬場 100 周年については、将棋の竜王戦七番勝負第 4 局を京都競馬場で開催するなど記念事業を幅広く実施しました。

③ ウインズ・デーの実施

日頃からウインズ等をご利用いただいているお客様に感謝の意を表するため、7 月 19 日（土）・20 日（日）に「ウインズ・デー」を実施しました。

(4) 勝馬投票の利便性の向上

競馬場やウインズ等における馬券購入の利便性及びサービスの向上を図るため、ＵＭＡＣＡ投票での購入額に応じて付与される「ＵＭＡＣＡポイント」について、ＧⅠ競走等を対象に還元率の上乗せ又は抽選でポイントが当たるキャンペーンを実施しました。また、ＧⅠ競走当日を中心として競馬場において、ＵＭＡＣＡ新規登録ブースを設置し、ウインズにおいてもＵＭＡＣＡ会員限定の抽選会等を実施したほか、ＵＭＡＣＡスマートの利用促進の広報を積極的に行いました。

こうした取組みの結果、新たに 58,477 人のお客様にＵＭＡＣＡ投票会員へご登録いただき、2025 年末時点の会員数は 422,092 人となりました。

加えて、全ての競馬場及びウインズにスマッピー専用フロアや専用窓口を設置するとともに、引き続き利用促進キャンペーンを実施するなど、スマッピーの更なる普及と利用拡大を図りました。

(5) 電話・インターネット投票会員の加入促進及び会員向けサービスの充実

① 電話・インターネット投票会員の加入促進

有馬記念において、「即ＰＡＴ新規加入キャンペーン」を実施しました。なお、新たに 1,329,000 人のお客様に電話・インターネット投票会員へご登録いただき、2025 年中央競馬終了時点の会員数は 7,191,583 人となりました。

② サポート体制の充実

電話・インターネット投票に関する様々な問合せに迅速かつ的確にお答えするため、ＰＡＴサービスセンターにおいて、「ＦＡＱシステム」機能のさらなる充実を図るとともに、安定運用のため新たに利用ポリシーを設けました。また、より容易に情報取得が出来るよう、ホームページ内の「ネット馬券購入」ページにおいて各種お知らせの配信を実施しました。

③ 電話・インターネット投票会員向けサービスの充実

「Ｃｌｕｂ　ＪＲＡ－Ｎｅｔ」のコンテンツの充実を図るとともに、年間を通じて会員向けの各種キャンペーンを実施し、2025 年末時点において、Ｃｌｕｂ　ＪＲＡ－Ｎｅｔの会員数は約 265 万人（対前年比 102.5%）となりました。

また、インターネット投票システムを活用した地方競馬の受託発売を計 234 日実

施し、売得金は約1,718億円となりました。

④　電話・インターネット投票の利便性の向上

お客様の利便性向上のため、即ＰＡＴの指定金融機関としてコード決済サービス「ＰａｙＰａｙ」の利用を12月に開始しました。

⑹　払戻金関連施策の実施

①　払戻率の設定

天皇賞（春）、ＪＲＡアニバーサリー及び菊花賞当日において、すべての競走、すべての投票法を対象に、払戻率を80％に設定しました。

②　払戻金の上乗せ

天皇賞（春）当日の全場・全レースを対象に、すべての投票法の払戻率を80％に設定したうえで、通常の払戻金に売得金の 5％相当額の上乗せを行う「ＪＲＡウルトラプレミアム」を実施しました。また、ＪＲＡアニバーサリー及び菊花賞当日には、すべての投票法の払戻率を80％に設定する「ＪＲＡ　スーパープレミアム」を実施しました。

これらにより、年間で通常と比べて7,818,468,790円多く払戻しを行いました。

また、すべての競走・投票法において、通常の払戻金が100円元返しとなる場合に、売得金の範囲内で払戻金に10円を上乗せする「ＪＲＡプラス 10」について、計689件で4,080,568,850円の上乗せを行いました。

⑺　ＪＲＡアニバーサリーの実施

日頃から中央競馬をご愛顧いただいているお客様に感謝の意を表するとともに、ＪＲＡのこれまでの歴史を振り返る日として、9 月 15 日(祝・月)を「ＪＲＡアニバーサリー」と題し、各種イベント等を実施しました。

⑻　販売ネットワークの拡充

Ｊ－ＰＬＡＣＥ札幌中央、札幌駅前、琴似駅前、福島、大井、呉及び宇部において発売レース数を拡大しました。

⑼　お客様への情報提供の充実

①　レース映像の充実

ＧⅠ競走当日を中心に、ドローンカメラや車載カメラ、ヴァーチャルカメラ、スーパースローカメラ等の特殊カメラを増設し、レース映像を制作・放映しました。

また、トラッキング表示対象レースの拡大（1日3～4競走）やマルチターフビジョンへのトラッキング表示の展開等により、より分かりやすい映像を多くのお客様に提供しました。

②　ＪＲＡホームページ及びＪＲＡアプリの充実

様々な特設サイトなどの新たなコンテンツを提供するとともに、海外馬券発売時には特設ページを開設し、出走馬やレース等に関する情報の提供を行いました。

また、ＪＲＡアプリについて「推し厩舎」機能を追加しました。なお、2025年末

時点において、ＪＲＡアプリの利用登録者数は前年より約82万人増加し、約227万人となりました。

③　映像提供施設「ＶＩＥＳＴＡ（ヴィエスタ）」の運営

馬券の発売を伴わない映像提供施設「ＶＩＥＳＴＡ仙台」及び「ＶＩＥＳＴＡ熊本」を運営しました。「ＶＩＥＳＴＡ仙台」には 85,234 人、「ＶＩＥＳＴＡ熊本」には53,038人のお客様にご来場いただきました。

(10)　ホスピタリティの向上

①　競馬場における滞在環境の改善

ⅰ）　阪神競馬場スタンドリフレッシュ

スタンドのリフレッシュ工事及びキッズガーデン整備工事が完了し、2025 年 3 月にリニューアルオープンしました。リニューアルオープン後の第 1 回阪神競馬では、入場人員が対前年比 118.3%、うち女性の入場人員が同 134.9%、お子様が同184.9%となり、多くのお客様にご来場いただきました。

ⅱ）　京都競馬場公園地区整備

公園地区整備が2025年9月に竣工し、10月にリニューアルオープンしました。リニューアルオープン後の第4回京都競馬では、入場人員が対前年比120.2%、うち女性の入場人員が同 132.1%、お子様が同 136.4%となり、多くのお客様にご来場いただきました。

ⅲ）　競馬場における通信環境の改善

全競馬場のＷｉ－Ｆｉ設備の増強・更新を計画に沿って実施しました。また、各競馬場の通信状況の現況を把握するための調査を適宜実施し、競馬場における通信環境の更なる改善に取り組みました。

ⅳ）　競馬場の指定席エリアにおける顔認証システムの導入

札幌、函館、新潟、東京、京都及び小倉競馬場において、指定席エリアの顔認証システムの本格導入を行いました。

ⅴ）　競馬場の混雑状況を表示する実証事業の実施

東京競馬場及び京都競馬場において、飲食店などの混雑状況を専用のウェブサイト等にてリアルタイムで表示する実証事業を開始し、検証を行いました。

②　接客体制の充実

スタッフの研修を実施するとともに、専門家による見取り調査等を行い、接客応対の改善を図りました。

５．馬事の振興及び馬の福祉の充実

(1)　乗馬の普及

各事業所において、乗馬スポーツ少年団や学生を対象とする乗馬指導を実施しました。

また、競馬開催時をはじめとして、体験乗馬や馬車試乗会等の馬事イベントを実施しました。

さらに、馬事公苑において、5 月 3 日（祝・土）、4 日（祝・日）及び 5 日（祝・月）に「第 47 回ＪＲＡホースショー」を開催し、60,390 人のお客様にご来苑いただきました。

(2)　馬術の振興

各種馬術大会の開催を支援するとともに、馬術の振興に関連する諸団体が行う事業に対して助成等の協力を行いました。

また、新たな試みとして、一般の乗馬愛好家や学生の馬術部員を対象とした聴講型の講習会「ＪＲＡ馬術フォーラム」を 3 回開催しました。

さらに、馬事公苑において、9月 23 日（祝・火）に開催された「第50回愛馬の日」には愛子内親王殿下のお成りを賜るとともに、30,095 人のお客様にご来苑いただきました。

(3)　馬事文化の発展への寄与

「競馬博物館」において、特別展やテーマ展等を実施しました。また、馬事公苑内のホースギャラリーや競馬情報発信基地「Ｇａｔｅ　Ｊ．」（東京・大阪）を通じて、競馬や馬に関する幅広い情報を提供しました。

(4)　引退競走馬のセカンドキャリアの促進及びその養老等に関する取組みの推進

11 月に馬事公苑において、引退競走馬と内国産乗用馬を対象とした「ジャパンブリーディングホースショー」を開催するとともに、馬事公苑等で引退競走馬をより円滑に乗用馬等へ転用するための調教（リトレーニング）技術の研究・検証に取り組みました。

また、競馬サークル関係者による「引退競走馬に関する検討委員会」を 3 回開催し、引退競走馬のセカンドキャリア促進を中心とした諸課題への検討を進めるとともに、障がい者乗馬やホースセラピー活動、大学・高校馬術部の支援等に取り組みました。

さらに、「(一財)Thoroughbred Aftercare and Welfare」を通じて、引退競走馬の養老・余生等に取り組む団体等への支援を行うなど、馬の福祉の充実に努めました。

６．事業基盤の強化に向けた取組み

(1)　効率的・安定的な事業運営に向けた取組み

①　業務の生産性の向上

生成ＡＩ「Ｇｅｍｉｎｉ」の導入による業務の効率化やワークフローの電子化をはじめとするＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）を加速させるとともに、柔軟で効率的な働き方を推進するなど生産性の向上に取り組みました。

②　危機管理体制の強化

大規模自然災害等の不測の事態が発生しても事業が継続できるよう、事業継続計画の点検・確認を行うとともに、適切に施設の安全点検を実施し、防火防災体制の強化に取り組みました。

③　情報セキュリティの確保

「情報セキュリティ委員会」で定めた「対策推進計画」に基づき、情報セキュリティに関する教育、情報セキュリティに関する自己点検及びプログラム開発における品質向上に向けた取組みを行いました。また、外部機関による情報セキュリティ点検を行うとともに、役職員に対するｅラーニング研修や標的型攻撃メール訓練等を実施しました。

④　コンピューターシステムの更新及び全体最適化

トータリゼータシステムをはじめとした各種システムについて、更新及び機能改善・強化を実施しました。また、一層のコンピューターシステムの全体最適化を推進するための基盤構築に着手しました。

⑤　地域社会との調和

競馬開催日に、競馬場やウインズ周辺地域において、警備ポストを配置する等の交通対策を実施しました。

また、競馬場・ウインズ等が所在する 42 の自治体に対して、総額 53.8 億円の環境整備事業費を交付し、事業所周辺の環境整備事業を実施しました。

さらに、競馬開催日に、競馬場やウインズ等において事業所周辺清掃や周辺道路の混雑緩和対策を実施しました。

⑥　国際協調及び国際協力の充実

国際競馬統括機関連盟（ＩＦＨＡ）の副会長国として、また、アジア競馬連盟（ＡＲＦ）の副会長国として、種々の世界規模の課題について有効な方策の検討や各国・地域間の意見調整を行い、外国競馬統括機関との国際協調の維持及び日本競馬の国際的地位の向上に努めました。

さらに、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、アイルランド、ドイツ、アルゼンチン、ブラジル、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、香港及びサウジアラビアとの交換競走を実施しました。加えて、アジアデー（マレーシア、タイ、インド及びフィリピンとの交換競走）を 7 月 5 日（土）小倉競馬場において実施しました。

(2)　人材の確保等に向けた取組み

①　ＪＲＡ職員等の人材確保及び人材養成

新規職員の採用について、一部の説明会をオンラインでも参加可能としたほか、企業合同説明会に参加するなど広く応募者を募り、2026年新規採用職員のエントリー数は1,112人（前年1,057人）となりました。

また、階層別研修やゲストスピーカーによる講演会等を通じてＪＲＡ職員等の養成に取り組みました。

さらに、関係団体においては、若手職員を中心に開催業務見学研修を実施し、競馬開催業務への理解の促進及び知識の習得に取り組んだほか、団体の要請に応じＪＲＡホームページ内の「採用情報」ページに団体の採用情報リンクを掲出し、採用活動のサポートを実施しました。

②　競馬産業の人材確保及び養成

騎手を志望する中学生を対象とした「ＪＲＡジュニアユース」活動から5名の騎手課程合格者を輩出しました。

また、若い世代や馬と触れ合った経験の少ない方に対して、競馬に関連する職業を紹介する「ＵＭＡＪＯＢ」施策を実施するとともに、厩舎や牧場への就業を支援する取組み等を行いました。

さらに、北海道大学・中央大学・法政大学・麻布大学において学生向けに競馬に関する講義を行ったほか、獣医学生を対象とする実習インターンシップや競走馬の獣医師を目指す学生に対する奨学金事業を実施しました。

加えて、厩舎従業員の人材確保のため、2025年度10月生より、競馬学校厩務員課程生徒の入学金や訓練馬維持負担金を免除するなど生徒の経済的負担の軽減策に取り組みました。

③　次世代育成

馬に関する講義や馬とのふれあいを行う出張授業を小学校15校において実施するとともに、キッザニア甲子園に引き続き「ホースパーク」パビリオンを出展し、3月にはキッザニア東京にも「ホースセンター」パビリオンを新たに出展しました。

また、「ジョッキーベイビーズ」については、地区予選を全国7か所で実施し、代表に選出された8名による決勝大会を、10月12日（日）に東京競馬場において実施しました。

７．社会からの信頼確保に向けた取組み

(1)　社会貢献活動

①　地域社会との連携・協調

各事業所において、防災計画やマニュアルの整備を行うとともに、大規模災害の発生に備え、防災備蓄品の配備・管理を適切に行いました。

また、一部事業所において、地域のイベントへの馬の派遣や、地域住民を対象とした催し物を実施しました。

②　畜産振興への支援（畜産振興事業）

畜産分野に係る喫緊の対応が必要な事業や安全・安心な畜産物の供給に関わる事業、馬の防疫体制の整備等、畜産の振興に資するための事業に関し、特別振興資金を活用して交付金を交付しました。（別表 10）

(2)　環境への取組み

①　地球温暖化防止

ＬＥＤ照明器具等の省エネ機器の導入や、太陽光発電システム・バイオマス燃焼発電システムの運用により、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の抑制に努めた結果、CO2 総排出量は年間 81,192t-CO2/年となり、2013 年比で 27.1%の削減となりました。

また、福島競馬場における CO2 フリーの電力需給契約の導入や、阪神・小倉競馬場の太陽光発電の運用通年化、美浦トレーニング・センターのバイオマス発電の本格運用開始等、使用エネルギーに占める再生可能エネルギーの調達率を高めるよう取り組みました。

②　資源循環型社会の構築への貢献

資源循環の基本原則である廃棄物の「3Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）＋Renewable（リニューアブル）」に取り組みました。なお、競馬事業に伴い発生する排出物の総量は年間 37,466ｔ（速報値／対前年比 100.2%）となりました。

③　環境関連法令の遵守

「エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（省エネ法）」「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」「国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律（環境配慮契約法）」「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」について、その遵守状況を定期的に点検しました。

(3)　組織の運営等に関する取組み

①　法令遵守と透明性の確保

ⅰ）　コンプライアンスに関すること

役職員に対する研修等を通じて「コンプライアンス行動指針」の周知徹底に努めるとともに、コンプライアンス監査等を実施し、コンプライアンス体制の確認・点検及びコンプライアンス意識の向上を図りました。また、コンプライアンス体制の維持・強化を図るため、「日本中央競馬会参加関連団体共通通報窓口」を引き続き設置しました。

ⅱ）　個人情報、法人文書等の管理に関すること

「個人情報の保護に関する法律」「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」「公文書等の管理に関する法律」の規定に基づき、ＪＲＡの保有する個人情報、法人文書等を適切に管理しました。また、各種研修・会議において啓発活動を実施するとともに、コンプライアンス監査等を通じ管理体制を強化しました。

ⅲ）　情報公開に関すること

「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」等の規定に基づき、ＪＲＡの保有する法人文書の開示請求 36 件について、適切かつ迅速に対応しました。また、ＪＲＡホームページ等を活用し、ＪＲＡの経営に関する情報等を公開しました。

ⅳ）　契約・入札等に関すること

「入札監視委員会」を 4 回開催し、契約・入札の更なる適正化に向けた点検を行いました。また、入札公告等契約に関する情報をＪＲＡホームページで公開しました。

※　海外駐在員事務所で発生した事案を踏まえ、外部有識者で構成される独立性、専門性を備えた「事実調査・ガバナンス検証委員会」が 11 月に設置され、2026 年にかけて事実調査及びＪＲＡ全体のガバナンス検証を実施していくこととなりました。

②　勝馬投票に関わる違法行為等の防止

ⅰ）ノミ行為、違法インターネット賭事及び悪質な競馬情報提供会社による被害等の防止

ノミ行為やインターネット賭事等の違法行為や、悪質な競馬情報提供会社について、ＪＲＡホームページやレーシングプログラム等の各種媒体を通じてお客様への注意喚起を行いました。

ⅱ）20 歳未満の者の勝馬投票券購入防止

20歳未満の者が馬券を購入することのないよう、レーシングプログラムやポスター等で周知を図るとともに、必要に応じてウインズへの入場時や、馬券購入時の年齢確認を実施する等の対策を講じました。

③　ギャンブル等依存症対策

安心して中央競馬をお楽しみいただける環境を提供するため、ギャンブル等依存症対策基本法に基づき閣議決定されたギャンブル等依存症対策推進基本計画等を踏

まえ、研修等を通じて役職員が正しい知識に基づく認識を持つとともに、お客様への注意喚起・知識の普及啓発、お客様からの相談対応体制の整備、競馬場・ウインズ等への入場制限、電話・インターネット投票の利用停止や購入上限額の設定等を引き続き実施しました。

④　社会貢献活動や環境への取組み等に関する発信

社会貢献・環境対策ＣＭ「Ｂｅ　Ｗｉｔｈ.～競馬のチカラを、社会に。～」を放映したほか、ＪＲＡホームページや各種メディアを通じてＪＲＡの社会貢献活動や環境への取組みについて発信しました。

＜別表目次＞

○　別表 1　　2025 事業年度の各種実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 18
○　別表 2　　開催競馬場別開催実績・競走成績・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 19
○　別表 3　　開催回数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 20
○　別表 4　　開催日数及び競走回数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 20
○　別表 5　　出走頭数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 20
○　別表 6　　中央競馬のお客様総数及び開催競馬場入場人員の推移・・・・・・p. 21
○　別表 7　　売得金の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 21
○　別表 8　　電話・インターネット投票会員数の推移・・・・・・・・・・・・・p. 22
○　別表 9　　馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移・・・・・・・・p. 22
○　別表 10　特別振興事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 23
○　別表 11　競走馬総合研究所等における研究について・・・・・・・・・・・・p. 35
○　別表 12　ＪＲＡ賞　受賞馬及び受賞者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 37

【別表 1】
◎2025 事業年度の各種実績

① 開催回数・開催日数	36 回・288 日
② 競走回数	3,455 競走（前年実績　3,454 競走）
③ 出走延頭数	47,715 頭（前年実績　46,994 頭）
④ 売得金	3 兆 5,178 億 4,445 万 3,200 円（対前年比 105.2%）
⑤ 開催競馬場の入場人員	522 万 9,792 人（対前年比 101.8%）※
⑥ お客様総数	2 億 1,158 万 3,809 人（対前年比 103.5%）

※うち女性入場人員は 119 万 4,895 人（対前年比 107.9%）。全体比 22.8%。

〔売得金〕

		対前年比	構成比（前年）※
中央競馬売得金	3兆4,853億1,261万　100円	105.2%	－
（内訳）			
開催競馬場	858億9,983万8,100円	96.4%	2.5%(2.7%)
パークウインズ	567億6,524万9,200円	103.7%	1.6%(1.7%)
ウインズ	2,969億2,264万4,600円	96.8%	8.5%(9.3%)
Ｊ－ＰＬＡＣＥ	735億8,096万　800円	103.7%	2.1%(2.1%)
ＵＭＡＣＡスマート	1,452億8,604万9,500円	156.4%	4.2%(2.8%)
電話・インターネット投票	2兆8,268億5,786万7,900円	104.7%	81.1%(81.5%)
海外競馬売得金	325億3,184万3,100円	111.0%	－
売得金（中央競馬＋海外競馬）	3兆5,178億4,445万3,200円	105.2%	－

※〔構成比については、端数処理をしているため、合計が 100%とならない場合があります。〕

〔お客様総数〕

		対前年比	構成比（前年）※
中央競馬お客様総数	2億　637万3,418人	103.4%	－
（内訳）			
開催競馬場	522万9,792人	101.8%	2.5%(2.6%)
パークウインズ	323万2,200人	105.4%	1.6%(1.5%)
ウインズ	2,047万2,813人	98.4%	9.9%(10.4%)
Ｊ－ＰＬＡＣＥ	551万1,700人	100.6%	2.7%(2.7%)
ＵＭＡＣＡスマート	414万1,903人	153.8%	2.0%(1.3%)
電話・インターネット	1億6,778万5,010人	103.3%	81.3%(81.4%)
海外競馬参加人員	521万　391人	111.8%	－
お客様総数（中央競馬＋海外競馬）	2億1,158万3,809人	103.5%	－

※〔構成比については、端数処理をしているため、合計が 100%とならない場合があります。〕

【別表 2】

１．開催競馬場別開催実績

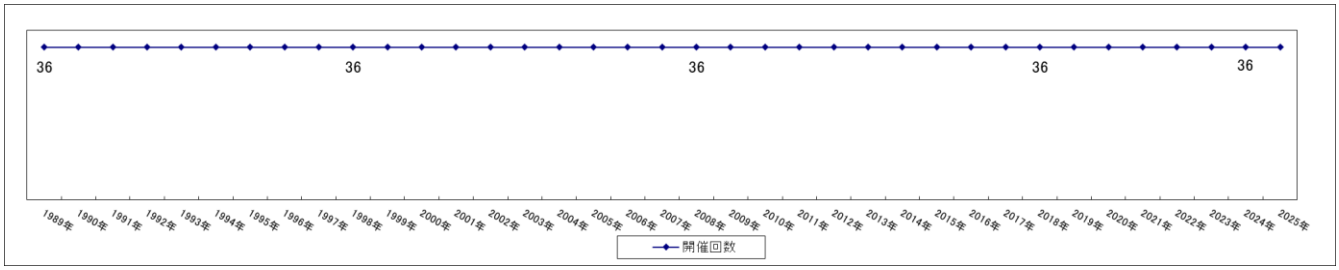
競馬場	開催回数	開催日数	競走数	出走延頭数	入場人員	売得金
札　幌	2 回	14 日	168 競走	2,071 頭	203,242 人	125,895,343,800 円
函　館	1	12	144	1,796	94,093	95,608,916,900
福　島	3	20	240	3,458	218,626	167,072,600,600
新　潟	4	24	288	4,092	277,936	211,475,002,700
中　山	5	42	504	7,344	831,609	665,551,132,300
東　京	5	45	539	7,696	1,587,288	732,035,160,800
中　京	5	33	396	5,561	395,427	352,763,641,700
京　都	4	39	468	6,107	742,904	490,557,720,600
阪　神	5	39	468	6,195	664,832	485,357,154,800
小　倉	2	20	240	3,395	213,835	158,995,935,900
計	36	288	3,455	47,715	5,229,792	3,485,312,610,100

２．競走成績

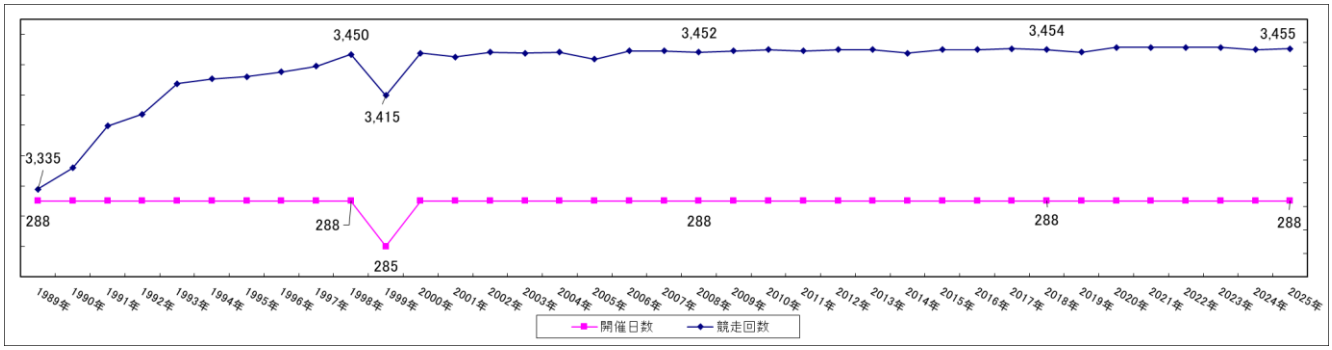
種別	競走回数				出走延頭数	出走実頭数	１競走平均出走頭数
	一般競走	特別競走	重賞競走	合　　計			
２　　歳	581 回	38 回	14 回	633 回	7,908 頭	3,324 頭	12.5 頭
３歳以上	1,843	743	116	2,702	38,412	8,374	14.2
障　　害	102	8	10	120	1,395	449	11.6
合　　計	2,526	789	140	3,455	47,715	11,923	13.8

※　平地競走と障害競走の両方に出走した馬の数は、224 頭

【別表 3】開催回数の推移（1989 年以降）

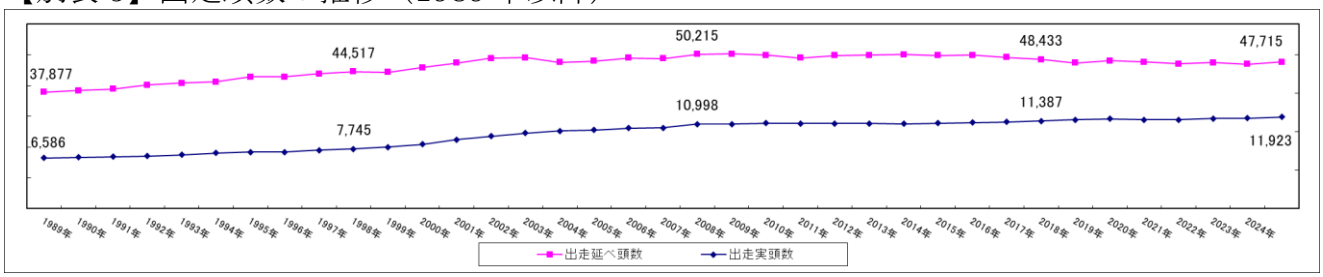


【別表 4】開催日数及び競走回数の推移（1989 年以降）

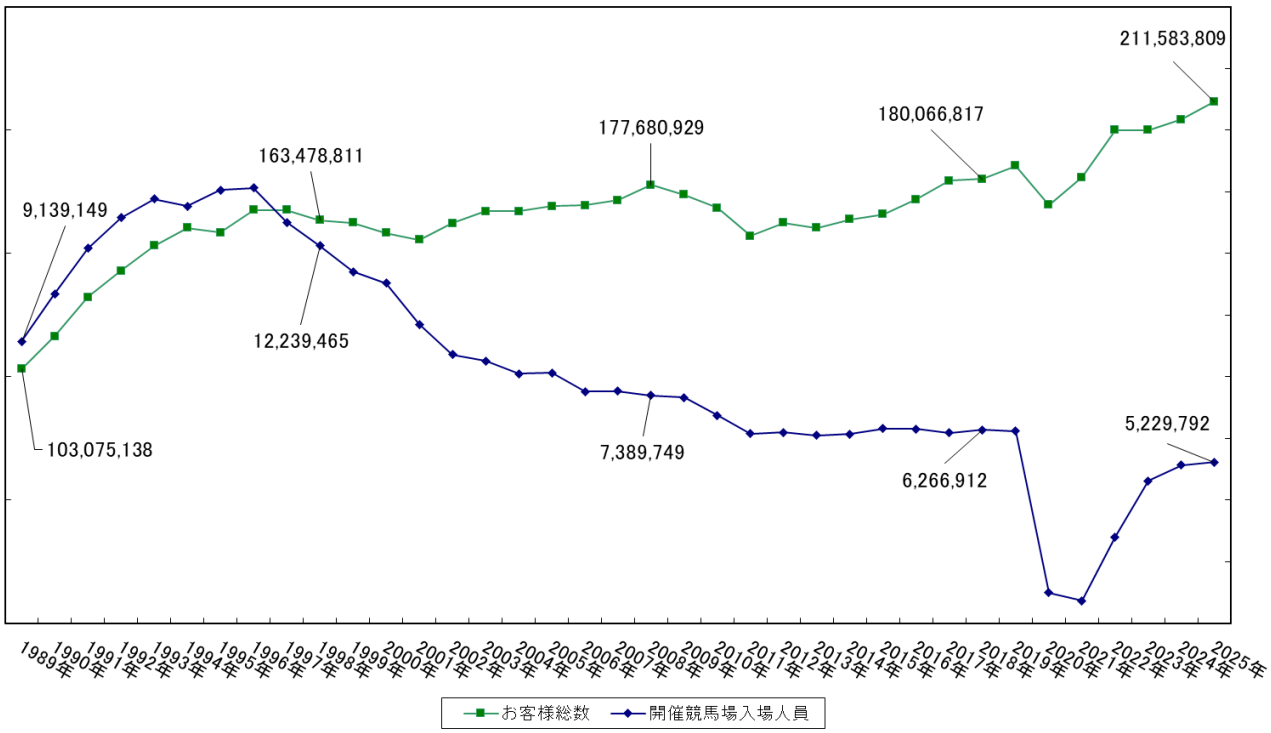


注）平成 11 年：厩務員春闘の影響により 3 回中山第 3 日、2 回阪神第 3 日、2 回中京第 3 日を取止め

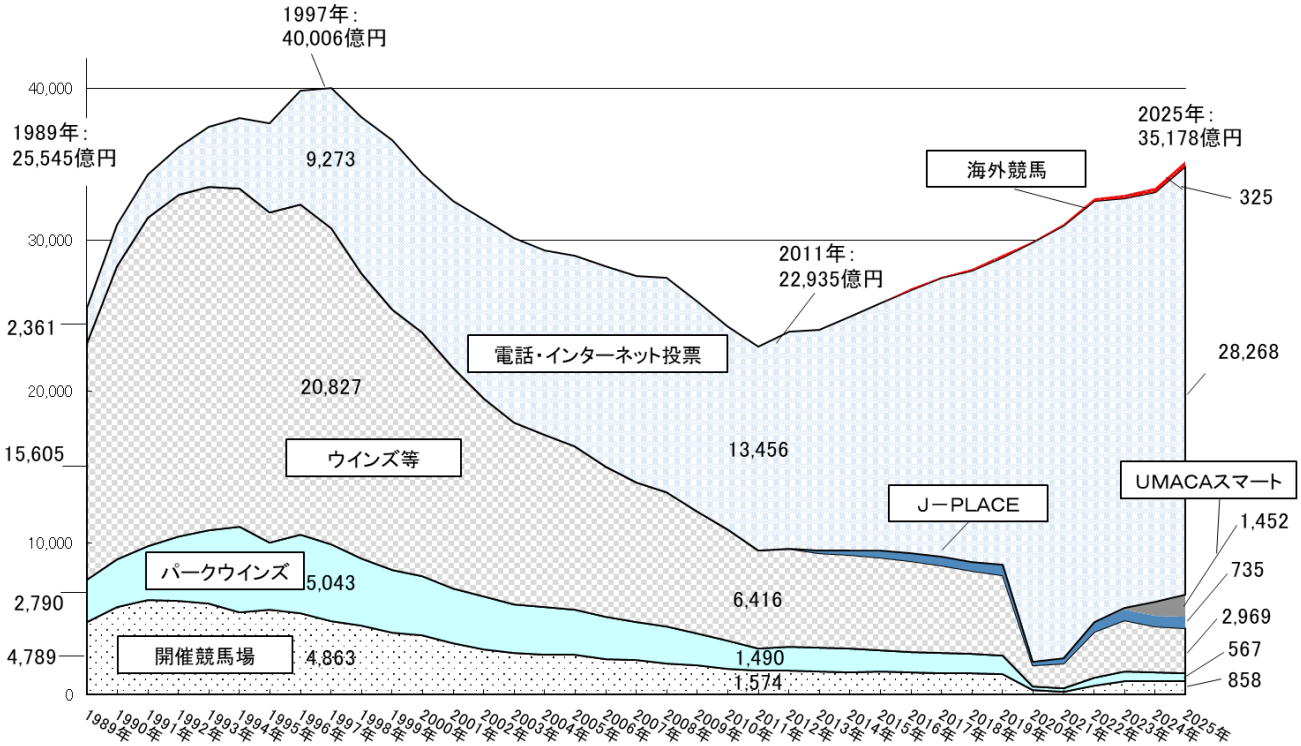
【別表 5】出走頭数の推移（1989 年以降）



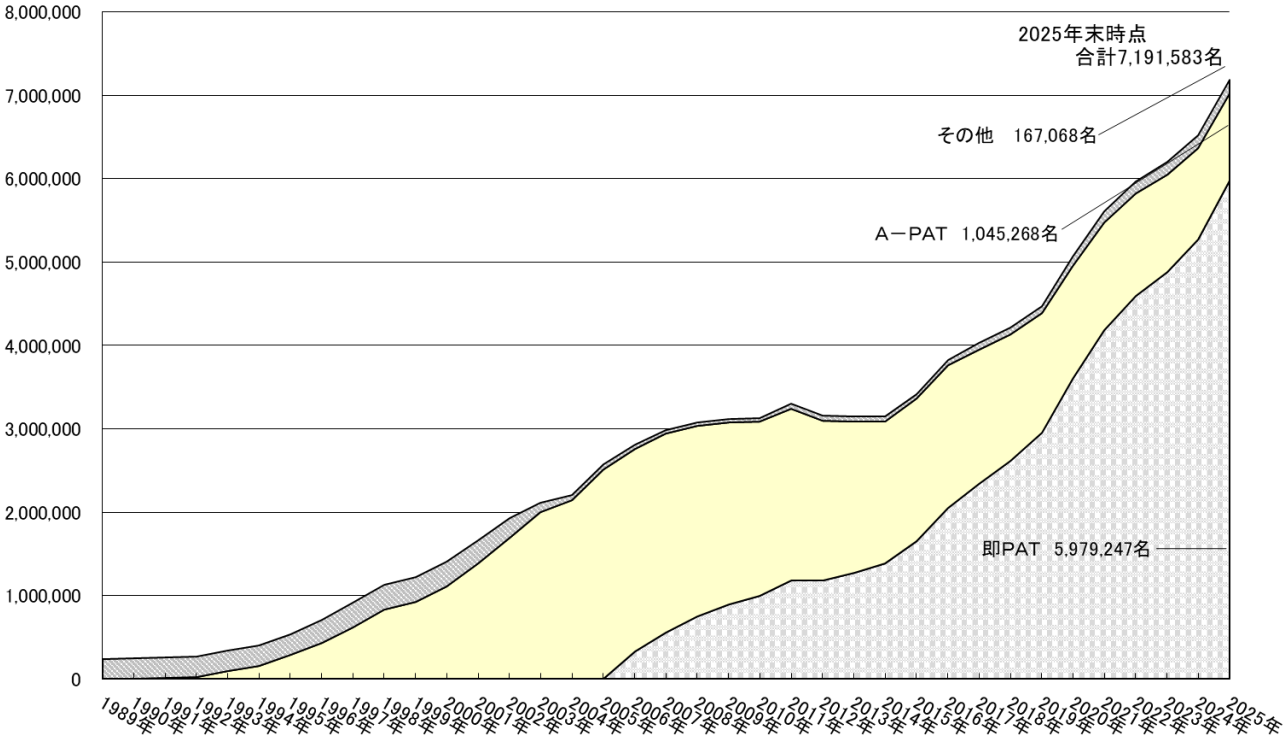
【別表 6】中央競馬のお客様総数及び開催競馬場入場人員の推移



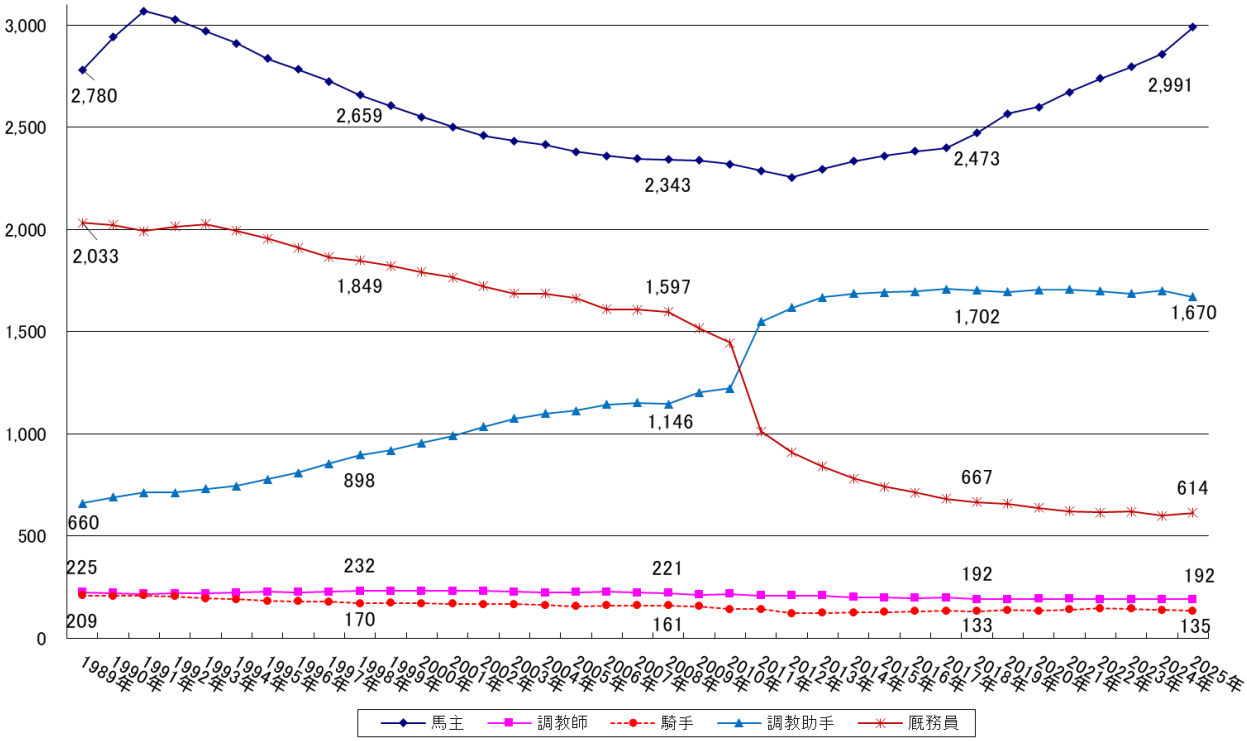
【別表 7】売得金の推移



【別表 8】電話・インターネット投票会員数の推移（1989 年以降）



【別表 9】馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移（1989 年以降）



【別表 10】

◎　特別振興事業について

①　競馬振興事業（2025 事業年度）

【ＪＲＡ直接実施事業】

事　業　名	事　業　内　容	実施額（円）
1. 競馬理解増進総合事業 （競馬場誘引型） （　催　事　型　） （馬事紹介型）	 ・競馬場への来場を誘引するための催事の実施 ・競馬未経験層を主な対象としたキャンペーンや催事等の実施 ・馬を活用した催事等の実施	1,233,587,393
2. 厩舎関係者救護体制円滑化事業	医療機器整備を通じた競馬場等の近隣医療機関との連携強化	81,827,179
3. 競走馬の獣医師を目指す学生のための学業奨励事業	競走馬の獣医師を目指す大学の獣医学生を対象とした奨学金給付	42,270,000
4. 競馬場防災体制整備事業	競馬場における帰宅困難者を想定した防災備蓄品の配備（更新）	51,748,620
5. 第 40 回アジア競馬会議の開催（札幌大会）	第 40 回アジア競馬会議（2024 年に札幌で開催）終了に伴う札幌競馬場設備・土木復旧工事	64,961,600
6. ギャンブル等依存症対策事業	全国公営競技施行者連絡協議会が実施するギャンブル等依存症対策に取り組む民間団体への支援等	4,588,903
7. 軽種馬育成調教センター（ＢＴＣ）調教施設整備事業	屋内 1,000ｍトラック馬場の新設及び滞在厩舎・宿舎の増設	2,118,296,246
8. 馬術競技の国際的競技力の基盤強化及び馬術振興・乗馬普及等に資する「馬術競技の強化・振興及び活性化等を推進支援する事業」【直接実施分】	2028 年ロサンゼルス五輪大会を目標とした馬術競技強化や馬術振興・乗馬普及に結びつく事業、馬術競技の活性化等に資する取組み	37,950,000
9.「引退競走馬のセカンドキャリア形成及び養老・余生環境の拡充等に向けた取組み支援事業」、「馬の多様な利活用促進等事業」、「馬術・乗馬の裾野拡充」及び「馬産業の人材養成、適切な馬の取扱い等に資する事業」【直接実施分】	馬を安全に取り扱える人材の養成、馬の多様な利活用の促進を図るための講習会等の実施、障がい者乗馬・ホースセラピー活動等の促進、引退競走馬の乗用馬への転用促進等	43,913,287
10. 大学馬術部活動支援事業	大学馬術部の活動を安定的に維持し、拡充させるための繋養費等の補助	221,660,000
11. 根岸競馬記念公苑整備事業【直接実施分】	馬に関わる文化の普及と保存を担う中心的な役割を果たす根岸競馬記念公苑の整備工事設計等	4,632,846,796
	合　　計	8,533,650,024

【助成事業】

事　業　名	事業実施主体	事　業　内　容	交付額（円）
1. 厩舎関係者海外研修事業	(一社)日本調教師会	厩舎関係者に対する研修の実施	33,000,000
2. ウォーキングマシン導入支援事業	(一社)日本調教師会	トレーニング・センターにおける調教補助設備（ウォーキン	261,178,099

		グマシン）導入に係る支援	
3.功労馬繋養支援事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	競馬の発展に貢献した功労馬の飼養管理支援、養老・余生の環境作り	66,000,000
4.日本競馬の情報・技術発信事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	海外へのレース映像配信、ウェブサイト等を通じた海外への日本競馬情報発信及び人材交流等を通じた技術交流の促進	133,000,000
5.競馬場周辺交通機関整備事業	京成バス千葉セントラル(株)	お客様及び競馬場周辺住民の利便性の向上、環境改善等に資する競馬場停留所路線を運行する民間のバス事業者による環境対策・安全性に配慮したバスの調達に対する助成	89,205,862
6. 第12回国際馬運動生理会議(ICEEP)実施事業	日本ウマ科学会	2026年の都内での第12回国際馬運動生理会議（ＩＣＥＥＰ）実施に向けたサイト立上げ・管理・演題審査、参加登録準備	5,000,000
7.地方競馬との共同広報事業	特別区競馬組合、兵庫県競馬組合	地方競馬主催者と共同で行う情報提供・広報宣伝	192,677,480
8.地方競馬振興促進事業	岩手県競馬組合、岐阜県競馬組合、兵庫県競馬組合	地方競馬場、発売施設の整備等	291,175,790
9.ＪＢＢＡ軽種馬生産・育成技術者養成推進事業の施設整備事業	(公社)日本軽種馬協会	研修所乗馬厩舎の改築及び乗馬詰所（管理所）等の改修	180,000,000
10.競走馬理化学研究所における国際リファレンスラボラトリー体制強化事業	(公財)競走馬理化学研究所	海外検体検査体制の構築（検査用機器の購入等）及び国際業務を継続的に実施できる人材の確保・育成（国際業務担当者雇用経費、海外技術研修費用）	67,723,000
11.新薬物検査体制の国際標準化における地方競馬検査経費に対する助成事業	地方競馬主催者１４団体	地方競馬主催者14団体に対する検体検査料金の一部助成	365,752,800
12.馬のアニマルウェルフェアに関する理解促進・普及等事業	(一財) Thoroughbred Aftercare and Welfare	馬のアニマルウェルフェアに関する適切な理解促進・普及のための講習会の実施及び資格制度新設のための仕組みづくり	65,000,000
13.馬術競技の国際的競技力の基盤強化及び馬術振興・乗馬普及等に資する「馬術競技の強化・振興及び活性化等を推進支援する事業」	(公社)日本馬術連盟 (公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会	2028年ロサンゼルス五輪大会を目標とした馬術競技強化や馬術振興・乗馬普及に結びつく事業、馬術競技の活性化等に資す	700,000,000 125,000,000

【助成分】		る取組み	
14.「引退競走馬のセカンドキャリア形成及び養老・余生環境の拡充等に向けた取組み支援事業」、「馬の多様な利活用促進等事業」、「馬術・乗馬の裾野拡充」及び「馬産業の人材養成、適切な馬の取扱い等に資する事業」【助成分】	(公社)全国乗馬倶楽部振興協会 (一財)Thoroughbred Aftercare and Welfare (一財)グリーンチャンネル	馬を安全に取り扱える人材の養成、馬の多様な利活用の促進を図るための講習会等の実施、障がい者乗馬・ホースセラピー活動等の促進、引退競走馬の乗用馬への転用促進等	228,000,000 1,503,956,100 195,000,000
15.根岸競馬記念公苑整備事業【助成分】	(公財)馬事文化財団	事務所の移転、収蔵品の移動及び保管	160,000,000
		合　　計	4,661,669,131

②畜産振興事業（2025 事業年度）

事　業　名	事業実施主体	事　業　内　容	交付決定額（千円）
1. 遠隔診療支援聴診クラウドシステム開発事業	国立大学法人　東京大学	クラウドを活用して獣医臨床現場における重要な生体情報である聴診音を高精度に中核診療施設に送信するとともに、各種聴診音をクラウド上で解析し、異常の有無を聴診者にフィードバックするシステムを構築する。	19,259
2. 伸長胚を用いた牛胚移植技術開発事業	国立大学法人　岡山大学	牛胚移植において、現在用いられている受精後 7 日齢の胚よりも発生の進んだ受精後 2 週間前後の目視可能な大きな伸長胚を移植胚として利用する技術を開発する。	82,892
3. 抗菌剤に頼らない畜産物の生産体制推進事業	国立大学法人　北海道大学	過剰量の抗生剤投与に伴う家畜由来の薬剤耐性菌の出現が世界規模で脅威になっている中、抗生剤に頼らないプロバイオティクスの自然免疫賦活作用を利用したワクチン効果の増強を検証し、次世代型ワクチンプログラムの構築を図る。	108,414
4. ミツバチにおけるノゼマ症調査研究 事業	国立大学法人　岐阜大学	教科書や国の「病性鑑定指針」には、情報が少ない N.ceranae によるノゼマ症の診断方法の確立に取り組み、ノゼマ属の感染環解明と消毒方法を検討し、防疫対策を築くことを目指す。	3,466

5. 乳用牛代謝状態・耐暑性評価技術開発事業	国立大学法人　信州大学	乳用雌牛の健康維持には、泌乳前期の高泌乳にともなう過度なエネルギー不足や夏季の暑熱ストレスによる代謝異常を防ぐ必要があり、乳中成分情報を活用し、泌乳前期の代謝状態及び耐暑性を改善するための遺伝的能力評価技術および個体管理指標を開発する。	108,317
6. 理想蹄形に基づく牛削蹄ロボット開発事業	国立大学法人　岩手大学	牛のアニマルウェルフェア（AW）に適合した“理想蹄形”を追求するための評価システム構築と、削蹄ロボット製作を行い、と畜蹄を対象に自動削蹄の知見や技術を蓄積し、生体に適用するための有効性や安全性を検証する。	106,327
7.AI を使った病原体遺伝子を網羅的に検出する定量PCR開発事業	国立大学法人　岩手大学	家畜感染症遺伝子診断において、従来の試行錯誤的な PCR プライマー設計から脱却し、ウイルスと宿主の全ゲノムを考慮した効率的な検出手法による AI とタイリング技術を融合させた新しい診断システムの開発を目指す。	7,265
8.牛の先進精密状態監視システム開発事業	学校法人　五島育英会　東京都市大学	体表温、加速度、脈波データをリアルタイムで解析し、授精適期・分娩時期を高精度で予測するのみでなく、発情・分娩の質、ストレス状態や疾病等による体調変化をも早期に検知し得る技術を開発する。	51,385
9.持続的な褐毛和種の生産・改良システム開発事業	国立大学法人　宮崎大学	和牛の一品種である褐毛和種について、ゲノム情報を用いた正確度の高いゲノミック評価と系統分類を実施することで、効率的な育種改良と遺伝的多様性の確保を図る。	106,446
10.薬剤耐性マイコプラズマ迅速判定法の開発事業	学校法人　酪農学園大学	薬剤耐性マイコプラズマ感染症は、適切な検出法がないために、不要な抗菌薬の使用が行われ、治療が効果を示さないことも多いため、携帯型シークエンサーを用いた迅速な薬剤耐性マイコプラズマ判定法を開発する。	32,773
11.子牛への有用微生物叢移植ガイドライン作成事業	国立大学法人　東北大学	有用微生物叢移植のドナーに関するガイドライン及び、レシピエントに関するガイドラインを作成することで、本技術の動物医薬品としての承認申請を見据えた最終検証を行う。	91,736

12.黒毛和種仔牛への若齢除角の影響評価事業	国立大学法人　東北大学	若齢期の除角が黒毛和種仔牛のアニマルウェルフェアおよび生産性に与える影響について、短期（除角時）、中期（育成期）、長期（肥育期）の時間軸に沿って評価し、若齢除角が黒毛和種牛に与える影響を明らかにする。	49,058
13.国産トウモロコシ子実の生産拡大事業	国立大学法人　山形大学	子実トウモロコシ栽培におけるカビ毒低減化技術と強害雑草防除技術を検討するとともに、土壌の炭素蓄積の実態調査による環境負荷低減効果を評価する。さらに収穫調製後のトウモロコシ子実の常温での長期貯蔵技術を検討し、その品質向上させる。	95,551
14.生殖器異常原因遺伝子検査法実用化検証事業	国立大学法人　東京大学	乳用牛の受胎性に悪影響を及ぼす生殖器奇形原因遺伝子を網羅的 SNP 解析を行って特定する検査法を用いてフィールドの個体や精液の検査を行い、実用化に向けた検証を行う。	48,784
15.鳥インフルの鶏舎侵入監視システム開発事業	国立大学法人　東京農工大学	鳥インフルエンザ感染リスク低減のため、高感度センサーを開発し、空気中および物質表面のウイルス動態を監視して、ウイルスの鶏舎侵入経路を特定・解析し、リアルタイムで監視する体制を確立する。	110,760
16.微細藻類を用いた豚用経口ワクチン開発事業	国立大学法人　東京農工大学	胞壁をもたない耐酸性微細藻類を利用し、豚熱を対象にしたブタ用経口ワクチンへの利用可能性を検証することで、他のブタ用ワクチンを経口ワクチンへと展開する基盤を構築する。	66,141
17.国産銘柄豚の品質管理による銘柄力強化事業	国立大学法人　茨城大学	銘柄豚肉の肉質の斉一性を低下させる要因を調査解明し、銘柄協議会等で活用可能な品質管理手順書を提示して、国産銘柄豚肉の価値向上を目指す。	31,422
18.BLV 発症関連遺伝子の経済形質評価事業	国立大学法人　東京大学	牛伝染性リンパ腫ウイルス（BLV）の発症予測に基づく清浄化対策の実現のため各発症関連遺伝子の経済形質への影響を調査し、経済的効果を人工知能により融合させた経済形質効果統合 BLV 発症予測診断法を構築する。	111,363

19.地域特性対応可能な BVD 清浄化手法確立事業	学校法人　日本獣医生命科学大学	的確な検査スキームの確立と地域や飼養形態に適合した効率的な清浄化策確立のため、BVD 調査手法の開発・改良及び地域の特徴や飼養形態ごとにモデル化した清浄化プログラムの立案・実施及びその成果の評価を行う。	92,539
20.種豚の遺伝資源保存・個体復元技術開発事業	学校法人　麻布大学	貴重な種豚の遺伝資源を保存するため、生産農場で実施可能な生体内卵子吸引および非外科的移植と胚の体外生産ならびに超低温保存等の生殖技術を組み合わせた種豚の遺伝資源保存および個体復元技術を確立する。	62,585
21.畜産害虫サシバエの生物的防除対策事業	国立大学法人　九州大学	サシバエの在来天敵寄生蜂を活用した新規の生物的防除を実施し、防除効果の指標としてサシバエ飛来数、及びサシバエが媒介要因とされる牛伝染性リンパ腫ウイルスの陽転率について調査する。	103,063
22.BRDC 制御に向けたワクチン開発事業	国立大学法人　東京大学	現行ワクチンで有効性が低いウイルスや現行ワクチンに含まれていない BRDC 原因ウイルスに対する新規弱毒生ワクチン候補株を作製し、小動物や牛への免疫試験によりその効果を検証することにより効果的に制御しうるワクチンの開発を目指す。	36,066
23.卵胞活性化技術によるウシ妊孕性向上事業	公立大学法人　秋田県立大学	生体卵子吸引法と卵胞活性化法を組合せてウシ胚の大量生産技術を検討するとともに成熟前培養による卵子の高品質化および機械学習を活用した IVF 胚の品質評価を組合せることで胚生産技術の高度化を図る。	53,074
24.経腟採卵普及のための牛卵子輸送法開発事業	国立大学法人　岐阜大学	経腟採卵後の卵子品質を維持したまま長期間輸送する手法を最適化・実用化する。この技術が開発されれば、遠方の培養拠点への卵子運搬が可能となることで臨床獣医師の新規参入が容易になり、体外胚生産量を増大させることができる。	77,749
25.種雄牛の精液生産安定化技術開発事業	一般社団法人　家畜改良事業団	種雄牛において近年、発生している精巣石灰化等による精液品質低下に対し、精液生産性に関連する遺伝因子を特定することにより DNA マーカー等の遺伝マーカーを開発し、種雄牛の遺伝的な繁殖障害を排除する	55,463

		ための技術を開発する。	
26.馬鼻肺炎ウイルスの簡易迅速検出法の開発事業	国立大学法人　北海道大学	馬鼻肺炎ウイルスを検出するイムノクロマトグラフィーを作成し、日本とモンゴルで収集した臨床サンプルを用いて評価することで、臨床現場において簡易、迅速に病原体を検出するキットの開発を試みる。	17,979
27.食肉産業を支える鮮度保持技術の開発事業	国立大学法人　神戸大学	フードロス削減、安全性向上、輸出促進に繋げることを目的に、牛肉、鶏肉、豚肉の特性に応じた鮮度保持技術、食肉の微生物的劣化や酵素的劣化に着目した食肉の非破壊的な評価技術及び迅速な微生物検査技術を開発する。	25,237
28.代謝刷り込み型牛放牧肥育技術の高度化事業	国立大学法人　北海道大学	「代謝刷り込み」を用いて、牛胎児期や新生児期の栄養や光刺激により放牧でも太る体質を獲得させるだけでなく、個体ゲノムにおける SNP 情報を最適に組み合わせ、放牧肥育でも良質で十分な肉量を生産しうる持続的な飼養技術を開発する。	104,868
29.分娩事故低減による牛の繁殖成績向上事業	国立大学法人　宮崎大学	牛の分娩事故を低減するために子宮頸管粘液中インターロイキン迅速測定による難産予防、胃内圧力センサによる分娩事故予防および粘膜アドミッタンス測定による産道疾患診断技術を開発する。	98,741
30.電気柵を用いた獣害に強い放牧畜産体系の構築・実証事業	公益財団法人　神津牧場	高耐久で省力管理が可能な新しい電気柵技術の導入により、獣害に強く、林地や傾斜地が優占する条件不利地でも適用でき、維持管理作業が容易な放牧畜産体系を提案し、その実証試験を試みる。	34,107
31.日本在来馬（野間馬）の人工授精定着化事業	公益社団法人　日本馬事協会	日本在来馬のひとつである野間馬は、近年、飼養頭数が 52 頭（令和５年）まで減少し、絶滅が危惧されている状況にあるため、精液検査による優良な種雄馬を選定し、凍結精液を製造・保存・活用した人工授精を行うことにより、飼養頭数の維持・増頭に図る。	14,201
32.畜舎特例法で建設した畜舎等の経済分析事業	国立大学法人　宇都宮大学	畜産農家の畜舎建築コスト負担軽減のため、畜舎特例法が令和 4 年に施行されたことから、同法による建築コスト削減状況や早期営農開始による経済効果等に関する調査を行	62,809

		い、農家や建設業者に対して本法の経済的メリット、低コスト畜舎の活用・工夫事例の周知・普及を図る。	
33. 乗用馬防疫推進事業	公益社団法人　全国乗馬倶楽部振興協会	登録乗用馬に対し、軽種馬防疫協議会の予防接種要領に基づき、馬伝染性疾病である「馬インフルエンザ」、「日本脳炎」及び「破傷風」の予防措置として、その予防接種に掛かる費用を助成する。	42,602
34. ＡＷ対応豚電気スタニングシステム検討事業	公益財団法人　日本食肉生産技術開発センター	豚の電気スタニングシステムの改善を図り、豚のと畜施設における人手不足改善・経営効率化、アニマルウェルフェア（ＡＷ）の向上に資する。	85,545
35. 輸出施設ＡＷ研修システム等調査検討事業	公益財団法人　日本食肉生産技術開発センター	国際獣疫事務局（WOAH）において「と畜時のアニマルウェルフェア（ＡＷ）」規約が改正され、各国はこれをベースにＡＷの対応が求められることとなったため、我が国の食肉輸出施設においても国際的に対応できるＡＷの研修及び監査システム等を検討する。	104,136
36．畜産ティーン育成プロジェクト事業	公益社団法人　国際農業者交流協会	畜産業の将来性や有用性、重要性をしっかり理解し、就農を目指せることを認識させるべく、高等学校生徒を対象に畜産業が盛んな国で海外研修を実施し、研修成果を広く社会に発信し、次世代の畜産業従事者増加に資する啓発活動を行う。	28,368
37. 日本蜜蜂養蜂での人材育成の為の調査事業	一般社団法人　みつばち協会	全国でアンケート調査等を実施し、飼育手引書及び指導動画を作成するとともに講習会等を開催し人材を育成すると同時に、指導人材を育成し都道府県などの養蜂担当者との連携を図り継続した指導体制と人材育成の仕組を確保する。	70,698
38. 動物用医薬品等輸出促進対策事業	公益社団法人　日本動物用医薬品協会	国内の動物用医薬品を海外の展示会に出展し、認知度の向上、対面宣伝による接点の獲得、市場ニーズの把握等を行うとともに、輸出先国の承認所管担当部局の専門家を招聘し、製造販売承認取得に向けて承認申請実務に関する講習会等を開催する。	92,629
39. 和牛の飼料効率向上対策事業	公益社団法人　全国和牛登録協会	飼料効率向上による生産コストのため、余剰飼料摂取量のゲノム育種	32,003

		価を種雄牛候補選抜における指標としての活用に向けた検討と、飼料利用性に関与する SNP を搭載した和牛チップを用いた雌牛側の指標を検討する。	
40.和牛の繁殖能力の遺伝情報検証普及促進事業	公益社団法人　全国和牛登録協会	和牛の繁殖能力に関連する SNP の効果検証を行い、近交係数上昇の影響を検証しつつ、選抜指標としての活用を進めることにより、繁殖能力に優れた牛群の整備を促進する。	72,843
41.畜産に関わる仕事の理解推進事業	公益社団法人　中央畜産会	人材確保競争が増す今、ＳＮＳ活用やスムーズな情報アクセス実現のためのＨＰの拡充、職種の追加、出前授業等による直接的な情報発信により更に取組みを充実させ、畜産を支える人材確保に繋げる。	137,196
42.馬飼養衛生管理特別対策事業	公益社団法人　中央畜産会	地域の馬獣医療を担う獣医師の育成・診断技術の向上を図るとともに、馬飼養関係者の知識の習熟を図り、馬の飼養衛生管理の充実・強化を図る。	53,031
43.馬伝染性疾病防疫推進対策事業	公益社団法人　中央畜産会	馬インフルエンザ、馬鼻肺炎の発生防止や、育成馬及び繁殖牝馬における馬インフルエンザ等の伝染性疾病発生防止のため、ワクチンの予防接種を推進し、疾病に対する高い免疫の確保・維持を図り、馬事振興に資する。	275,118
44.家畜疾病・自然災害緊急支援資材強化事業	畜産経営支援協議会	令和 6 年 1 月の能登半島地震の発生に際して、緊急用機材・資材を大量に現地に送付し、活用されたが、新たな品目の追加整備、搬出した資材の緊急補充や更新費用の確保が喫緊の課題となっており、これらの緊急整備等を行う。	72,289
45.家畜防疫・衛生指導対策事業	公益社団法人　中央畜産会	国家防疫措置に併せて、地域における防疫演習、慢性感染症対応、馬伝染性貧血防疫等の自衛防疫活動を推進するとともに、農場 HACCP 認証審査員の養成・力量向上、認証に関する情報提供等の支援を総合的に実施する。	367,881

46. 地域養豚生産衛生向上対策支援事業	公益社団法人　中央畜産会	養豚生産主要地域において、農家、獣医師、行政、関係団体等で構成する自衛防疫組織を活用して、生産性を阻害する慢性疾病の衛生対策を実施し、安定的な養豚経営に資する。	160,125
47. 国産生ハム生産者育成・ブランド構築・普及事業	一般社団法人　国産生ハム協会	低需要部位である豚のもも肉を高付加価値産品とする国産長期熟成生ハムの生産者を育成するとともに、将来的な輸出を視野に入れた国際競争力のあるブランドを構築するため、国外目線での調査・研究・効果的な普及活動によるマーケット拡大を図る。	44,653
48. 畜産用医薬品等情報収集提供・コード統一促進事業	一般社団法人　全国動物薬品器材協会	動物用医薬品の流通等の国内外情勢の調査、情報収集、シンポジウム、ＷＥＢ研修等を実施するとともに、人用薬で普及している製品へのコードの動物薬への導入推進のため、利用実態・意向調査、実証モデルの選定、運用体制構築、普及啓発する。	54,459
49. 地鶏普及振興事業	一般社団法人　日本食鳥協会	地鶏普及振興委員会開催等事業、地鶏の情報提供事業及び地鶏の販路拡大事業を実施することにより、地鶏の振興を推進する。	79,463
50. 肉用牛環境対応収益性向上管理技術普及事業	一般社団法人　全国肉用牛振興基金協会	過去に実施した事業において作成した「飼養管理マニュアル」をベースに飼養管理の実例について検証、評価し、これを関係者、生産者で広く共有することで、環境問題にも調和した収益性の高い飼養衛生管理技術を普及推進する。	11,791
51. 牛遺伝的不良形質情報収集等強化事業	一般社団法人　家畜改良事業団	牛の遺伝的不良形質発症個体の情報を積極的に収集し、従来の対策と併せて専門委員会に情報提供することで発症個体の発生抑制につなげ、生産現場での収益性の低下を未然に防止する。	122,141
52. Ｇ技術を活用した牛受精卵早期選抜実用化事業	一般社団法人　ジェネティクス北海道	ゲノミック技術を活用した牛の受精卵のゲノミック選抜技術の用化にはいくつかの課題が残されており、本事業を通じて課題に対応し、最終的には生産効率の向上と付加価値の増大、需要に応じた畜産物の生産・供給への貢献を目指す。	110,982

53. 国産食肉への消費者支払意思増加促進事業	公益財団法人　日本食肉消費総合センター	国産食肉の生産コスト増による価格の上昇は買い控えをもたらす恐れがあるため、食肉の健康機能等（栄養、保健機能、美味しさ等）について科学的根拠に基づく情報を提供し、国産食肉への支払意思の増加を図ることにより、消費量の減少を抑制する。	16,423
54. 供給リスク増大下の食肉事情等理解醸成事業	公益財団法人　日本食肉消費総合センター	食肉を含む食料供給のリスクが増大する中で、最近の食肉の供給事情や食肉の合理的な価格形成に対する一般消費者の理解を醸成することにより、将来にわたって食肉の安定供給を図る。	38,798
55. 高度牛繁殖技術普及強化事業	一般社団法人　日本家畜人工授精師協会	牛繁殖技術向上に向けた超音波検査技術の導入のため、研修会を開催し、若手技術者の技術習得の場を設け、生産技術の高位安定化を図るとともに交配状況と受胎率調査を全国で実施し、繁殖技術水準を常に確認できる情報の提供を行う。	85,394
56. 家畜伝染病の実地疫学エキスパート養成事業	学校法人　立命館大学	豚熱や高病原性鳥インフルエンザが発生した場合の防疫対応において、情報の収集・分析や適切な情報提供を行なえる実地疫学の教育ツールを開発し、これらのツールを用いて研修プログラムを作成し、実地疫学の普及教育と専門家の養成研修を実施する。	32,109
57. 気候リスク対応飼料生産技術実証事業	一般社団法人　日本草地畜産種子協会	近年、気候変動に起因すると考えられる著しい高温、干ばつ、局地的な豪雨、大型台風の発生等による夏枯れや種子流亡、倒伏が各地で頻発し、飼料の安定生産に多大な障害となっていることから、これらの気候リスクに対応する栽培技術を確立する。	105,265
58. 飼料の安定的確保等実態緊急調査事業	一般社団法人　全日本畜産経営者協会	国産飼料生産やエコフィード利用の拡大、輸入飼料の安定的な入手ルートの確保などで飼料を安定的に生産、調達している経営の事例を調査し、畜産生産者が利用、活用できる手法、対応事例等を提示する。	14,263
59. 次世代の養蜂人材育成のための研修事業	公益社団法人　国際農林業協働協会	養蜂産業を支える人材の育成を目指し、養蜂の意義・役割に加え、養蜂産業の課題や課題解決のアプロー	20,427

		チを学び、養蜂産業への理解を深めることを目的とした高校生および教員向けの研修を実施する。	
60. 農場管理認定獣医師等認定・活動支援事業	公益社団法人　日本獣医師会	畜産農場への感染症の侵入防止をはじめ、生産性の向上、畜産経営の改善、薬剤耐性対策に対し高度な知識・技術を修得した農場管理認定獣医師等が広く畜産経営及び国民に認知されるべく養成研修体制の整備及び認定・専門獣医師制度を推進する。	74,497
61. 多頭群飼養のスマホと目視による ICT 活用事業	公益社団法人　畜産技術協会	大規模肉用牛経営において ICT 機器を活用した省力化のため、現場の作業者がスマートフォンを用いて、発情、分娩等、疾患等の現況を手軽に熟練者や獣医師に送信し、遠隔で状況が共有できる方法を開発する。	11,025
62. 雛肛門鑑別師養成・ＡＩ鑑別技術調査事業	公益社団法人　畜産技術協会	雛の雌雄鑑別について、地鶏等では肛門鑑別以外の手法がなく、ＥＵ等で卵段階での鑑別技術が開発中だが、コスト面で導入が難しいことから、技術進展の過渡期において、少数育成と高齢鑑別師を支援するＡＩ肛門鑑別の調査を行う。	114,975
63. 地域横断型産業動物臨床卒後教育事業	国立大学法人　宮崎大学	宮崎大学と鹿児島大学共同で、産業動物臨床獣医師の地域を横断した卒後教育を実施する。また、遠隔受講に対応した教材（ビデオ教材）として、基礎、応用および臨床獣医学各分野を融合した系統的なものを作成する。	47,176
		小　　計	4,679,767

（注）　上記の各事業は、（公財）全国競馬・畜産振興会を通じて実施するものである。

事　業　名	事業実施主体	事　業　内　容	実績額（千円）
畜産振興事業附帯事業	本会	学識経験者からなる審査委員会を設置し、新規事業を選定するとともに、特定法人において助成金交付業務を業う。また、学識経験者からなる評価委員会を設置し、事業評価を行う。	114,072
		小　　計	114,072
		総　　計	4,793,839

【別表 11】

◎　競走馬総合研究所等における研究について

No.	研究種類 研究分野	研究課題	事業所	担当 研究室	協力機関等
1	一　般 スポーツ科学	競走馬の各種疾病に対する臨床技術の向上に資するための基礎研究	競走馬総合研究所	運動科学 臨床医学	
2	一　般 伝染病対応	馬感染症の疫学監視および臨床微生物学的研究	競走馬総合研究所	微生物 分子生物	
3	一　般 生産育成	競走馬の生産育成に関わる諸課題の解決ならびに各種疾病における診断・治療法および予防法に関する研究	競走馬総合研究所	生産育成	
4	一　般 スポーツ障害	暑熱順化プロトコルの違いによる運動パフォーマンスへの影響	競走馬総合研究所	運動科学	
5	一　般 スポーツ障害	速度と傾斜が走行フォームおよび筋活動に与える影響	競走馬総合研究所	運動科学	
6	招 聘 スポーツ障害	喉頭片麻痺および心房細動が運動性肺出血に及ぼす影響	競走馬総合研究所	運動科学	ワシントン州立大学 カルガリー大学
7	一　般 スポーツ科学	多剤耐性菌感染症に対する抗菌薬投与法の検討	競走馬総合研究所	臨床医学	
8	一　般 スポーツ科学	術部感染症に対する生体分解性抗菌薬徐放製剤の応用に関する研究	競走馬総合研究所	臨床医学	
9	一　般 伝染病対応	整腸剤および糞便移植が抗菌薬投与後における腸内細菌叢の復元力に与える影響	競走馬総合研究所	微生物	
10	一　般 伝染病対応	第 3 の馬ピロプラズマ *Theileria haneyi* 病原学的診断法の開発	競走馬総合研究所	微生物	
11	一　般 伝染病対応	馬鼻肺炎ウイルス感染馬およびワクチン接種馬における早期免疫応答の解析	日高育成牧場	分子生物	
12	一　般 生産育成	不活化ワクチン免疫馬血清を用いた馬インフルエンザウイルスの抗原性評価	日高育成牧場	分子生物	
13	一　般 生産育成	妊娠月齢が繁殖牝馬のインスリン感受性に及ぼす影響	競走馬総合研究所	生産育成	

14	委 託 スポーツ障害	暑熱順化がサラブレッドの骨格筋に与える影響	競走馬総合研究所	運動科学	神奈川大学 人間科学部 人間科学科
15	委 託 スポーツ科学	ウマ細菌感染症の非生体感染モデルの確立	日高育成牧場	臨床医学	慶応義塾大学 薬学部 薬効解析学講座
16	委 託 生産育成	葉状条虫の高感度診断法開発のための糞便内抗原候補分子の探索	日高育成牧場	生産育成	北海道大学 獣医学研究院 寄生虫学教室
17	委 託 生産育成	放牧地における植生分布および被食エリアの可視化技術の開発	日高育成牧場	生産育成	北海道大学 農学研究院 畜牧体系研究室

【別表 12】

ＪＲＡ賞　受賞馬及び受賞者

１．競走馬部門

	受賞馬	（馬主）	（調教師）
年度代表馬	フォーエバーヤング	藤田　晋　氏	矢作　芳人（栗東）
最優秀２歳牡馬	カヴァレリッツォ	(有)シルクレーシング	吉岡　辰弥（栗東）
最優秀２歳牝馬	スターアニス	吉田　勝己　氏	高野　友和（栗東）
最優秀３歳牡馬	ミュージアムマイル	(有)サンデーレーシング	髙柳　大輔（栗東）
最優秀３歳牝馬	エンブロイダリー	(有)シルクレーシング	森　　一誠（美浦）
最優秀４歳以上牡馬	フォーエバーヤング	藤田　晋　氏	矢作　芳人（栗東）
最優秀４歳以上牝馬	レガレイラ	(有)サンデーレーシング	木村　哲也（美浦）
最優秀スプリンター	サトノレーヴ	里見　治　氏	堀　　宣行（美浦）
最優秀マイラー	ジャンタルマンタル	(有)社台レースホース	高野　友和（栗東）
最優秀ダートホース	フォーエバーヤング	藤田　晋　氏	矢作　芳人（栗東）
最優秀障害馬	エコロデュエル	原村　正紀　氏	岩戸　孝樹（美浦）
特別賞	カランダガン	アガ・カーン・スタッズ	Ｆ.グラファール（仏）

２．調教師・騎手部門

①調教師部門

最多勝利調教師	杉山　　晴紀（栗東）
最高勝率調教師	木村　　哲也（美浦）
最多賞金獲得調教師	矢作　　芳人（栗東）
優秀技術調教師	杉山　　晴紀（栗東）

②騎手部門

ＪＲＡ最多勝利騎手	Ｃ．ルメール（栗東）
ＪＲＡ最高勝率騎手	Ｃ．ルメール（栗東）
ＪＲＡ最多賞金獲得騎手	Ｃ．ルメール（栗東）
騎手大賞	Ｃ．ルメール（栗東）
ＭＶＪ	戸崎　　圭太（美浦）
最優秀障害騎手	小牧　加矢太（栗東）
最多勝利新人騎手	該当者なし
特別賞	横山　　典弘（美浦）